

第5章

資料

感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点(59)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
畑医院	鶴見区市場西中町6-23	501-2019
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
いわた内科クリニック	神奈川区二ツ谷町6-3 雷鳴堂ビル2F	317-8166
横浜かんだいじファミリークリニック	神奈川区神大寺1-13-46 神大寺メディカルスクエア	491-2020
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647 菅田町メディカルビル1F	477-4022
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3 まるあビル1F	488-5123
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12 スカイビル21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107 ライフ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鶴養医院	南区宮元町3-55	334-8753
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34 森ビル1F	720-6008
あずま医院	南区清水ヶ丘1-21	231-7026
黒沢クリニック	港南区港南台7-42-30 サンライズ港南台2F201	833-9632
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ヶ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ヶ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ヶ谷区西谷3-23-33	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
大塚クリニック	旭区市沢町995-11 田口ビル1F	355-5377
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
富野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区谷津町378	783-5769
並木クリニック	金沢区並木2-9-4	788-0888
桑原内科クリニック	金沢区六浦5-21-3-106	791-5751
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区大倉山4-5-1 大倉山ハイム1-101	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
椎橋医院	港北区大豆戸町200 菊名レジデンスアプラザ101号	401-9092
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2 ホームステプラザ十日市場西館101	989-6388
西川内科医院	青葉区あざみ野1-26-10	901-1241

医療機関名	所在地	電話番号
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
清水内科医院	青葉区青葉台1-28-2	981-7231
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
小川メディカルクリニック	都筑区荏田南3-37-15 横浜青葉クリニックセンター2F	943-6566
葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14 ヘルテゼン1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46 踊場メディカルセンター2F	861-2511
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4階B号室	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉中央南1-37-7	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14 アイエイビルⅡ 1F-B	805-6685
ひらの内科クリニック	瀬谷区二ツ橋町304-1 ヒラノメディカルスクエア1F	392-2622
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1 三ツ境ライフB館	360-3558
本郷クリニック	瀬谷区本郷3-20-21	304-2017

小児科定点(94)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
宮川医院	鶴見区北寺尾6-7-19	585-5505
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
川端こどもクリニック	鶴見区生麦5-21-16	505-6670
石井医院	鶴見区生麦5-8-44	501-5531
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央3-19-11 ココファン横浜鶴見1F	506-3657
優美子供クリニック	鶴見区駒岡5-5-12 武田メディカルビルディング4階	576-6226
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
くぼた小児科	神奈川区新子安1-2-4 オルトヨコハマビジネスセンター1F	438-0291
まつうら小児科・内科	神奈川区三ツ沢中町8-6	321-3171
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
はたの東神奈川キッズクリニック	神奈川区東神奈川2-42-5 ゴールデン東神奈川ビル201	451-0111
いわさきしほ小児科	神奈川区六角橋1-6-14 白楽メディカルセンター302	947-4522
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
かめのはしクリニック	中区石川町3-108-1	226-2818
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2 小菅医療ビル4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
ゆいこどもクリニック	南区弘明寺町字前田144-1 水谷ビル2F 203号室	730-4152
中村クリニック	南区井土ヶ谷下町28-16	720-1266

医療機関名	所在地	電話番号
みやじ小児科クリニック	南区六ツ川3-86-7	716-1011
相原アレルギー科・小児科クリニック	南区高根町3-17 スーク大通り公園参番館201号	261-0737
港南台こどもクリニック	港南区港南台5-23-30 港南台医療モール4F	836-3255
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1 いずみプラザ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
上大岡こどもクリニック	港南区上大岡西1-15-1 かみオ404-2	882-0810
星川小児科クリニック	保土ヶ谷区星川2-4-1 星川SFビル4F	336-2260
おざき小児科	保土ヶ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ヶ谷区岩間町1-4-1	331-2478
新桜クリニック	保土ヶ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
北原医院	保土ヶ谷区上菅田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ヶ峰1-13-2	373-6752
はせがわこどもクリニック	旭区笹野台1-1-36 城田ビル1F	360-0755
サンクリニック小児科	旭区柏町127 相鉄南万騎が原第4ビル102	366-6821
ひろ小児科クリニック	旭区鶴ヶ峰2-5-16	953-1001
二俣川こどもクリニック	旭区二俣川2-50-14 コプレ二俣川7F	366-0505
二俣川こどもクリニック 北口院	旭区二俣川1-45-76 坂本ビル1F	360-7750
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区下町8-16 1F	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11 高野第2ビル2F	785-1152
かわなこどもクリニック	金沢区瀬戸19-14 金沢八景金井ビル3F	350-6277
横浜南共済病院	金沢区六浦東1-21-1	782-2101
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1 長谷川メディカルプラザ富岡2F-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
きくな小児科皮膚科内科クリニック	港北区篠原北2-4-5 ウェストレ丸菱ビル1階店舗A	717-6850
大川小児科クリニック	港北区綱島東2-12-19 福島ビル1F	546-1071
カンガルーこどもクリニック	港北区新羽町2080-1 メディカルモールプラザ2F	309-0755
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
日吉こどもクリニック	港北区日吉本町1-9-26 MKハイム1F	560-1850
シブヤチャイルドクリニック	港北区大倉山3-56-22 ナビウス大倉山1F	542-6915
十日市場こどもクリニック	緑区十日市場町801-8 ホームストッププラザ十日市場 東館 2F	983-1018
ちはら小児科クリニック	緑区霧が丘3-2-9	923-1226
森の子キッズクリニック	緑区中山5-29-18	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1 土井ビル1F	930-3110
ぼっけキッズクリニック	緑区長津田みなみ台6-24-13	988-5330
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2 あざみ野メディカルプラザ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126
松岡医院	青葉区しらとり台20-13	981-6093
あざがみクリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092

医療機関名	所在地	電話番号
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ライムライト松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 トムス有本101	901-6870
はるの木こどもクリニック	青葉区藤が丘1-14-49 横浜藤が丘Nビル2A	972-0088
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ヶ崎南5-1-10 ノーブル茅ヶ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
サウスウッドこどもクリニック	都筑区茅ヶ崎中央6-1 サウスウッド3F	942-7700
キッズクリニック鴨居	都筑区池辺町4035-1 ららぽーと横浜1101-6	929-0085
マサカ内科小児科	戸塚区品濃町523-3 マサカビル1F	823-7866
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8 土屋クリニックビル1F	865-6666
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2354
小泉小児クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566
ゆめはまクリニック	戸塚区舞岡町3406	828-2007
海のこどもクリニック	戸塚区川上町91-1 モレラ東戸塚3F	390-0841
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA102	869-0311
本郷台こどもクリニック	栄区小菅ヶ谷1-5-1-D	895-5557
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
つちだこどもクリニック	栄区本郷台3-1-7	893-4176
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 アイエイビルⅡ1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
ふくだ小児クリニック	泉区上飯田町938-1 いずみ中央クリニックビル3F	805-1020
はっとり小児科	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOビル2F	804-4153
すこやかこどもクリニック三ツ境	瀬谷区三ツ境1-5 ヒルトップ壱番館2F	362-7778
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10 サニーハイツ三ツ境1F	360-6080
なごみクリニック	瀬谷区二ツ橋町489-45	360-8183
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

眼科定点(22)

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 トミヤビル4F	502-0222
豊岡アイクリニック	鶴見区寺谷1-3-2 山田メディカルビル2F	571-5861
矢島眼科医院	神奈川区片倉5-1-1 ARビル3F	482-1950
まつい眼科医院	西区戸部本町51-10	322-6249
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
吉野町眼科	南区山王町4-26-3 ストークビル秋山1F	260-6726
みやざき眼科クリニック	港南区日限山1-57-40	829-0223
梅の木眼科クリニック	保土ヶ谷区西谷1-25-21 ポンテロッサ西谷1F・2F	371-2666
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5-5 二俣川北口第2ビル2F	363-1102
磯子うすい眼科	磯子区森1-9-1 アクロスキューブ磯子3F	751-1122
おいかわアイクリニック	金沢区能見台通12-6	374-4774
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ヴィラ綱島ビル1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ビル1F	562-5331
宮崎眼科	緑区長津田みなみ台4-7-1 アピタ長津田店1F	989-1805

医療機関名	所在地	電話番号
眼科中井医院	青葉区美しが丘2-14-7	905-5777
スマイル眼科クリニック	青葉区青葉台1-6-12 カンセームビル4F	988-4912
アキコ ルミエール眼科	都筑区茅ヶ崎中央51-1 ヘルヴィル茅ヶ崎3F	945-1113
井上眼科	戸塚区柏尾町1016-2	822-2520
とつか眼科	戸塚区戸塚町16-5 ARKビル3F	861-6620
永井眼科医院	栄区本郷台3-1-3	893-5114
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2 相鉄ライフビル2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	302-6337

性感染症定点(29)

医療機関名	所在地	電話番号
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 サンワイズビル3F	584-8233
鶴見皮膚科泌尿器科	鶴見区鶴見中央1-10-17 カパーラ鶴見101	501-7181
やました泌尿器科・皮膚科クリニック	神奈川区六角橋1-13-1 ビッグ・ライズビル六角橋1F	439-2022
大石レディースクリニック	神奈川区片倉2-1-21 大石医療ビル1F	481-1101
横浜東口鳥居クリニック	西区高島2-14-13 エストビル3F	450-3331
石橋泌尿器科皮膚科クリニック	中区長者町9-166-1 ソフィアヨコハマ1F	263-0820
由利泌尿器科クリニック	南区井土ヶ谷下町213 第2江洋ビル4F	713-6311
みながわ泌尿器科クリニック	港南区上大岡西3-9-2 ルス・デ・ルナ1F	848-2118
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
増田泌尿器科	保土ヶ谷区帷子町1-30-1 クボタビル2F	340-2667
浅井皮膚科クリニック	保土ヶ谷区帷子町1-14	334-3412
メディカルパーク二俣川	旭区二俣川2-50-14 コプレ二俣川8F	459-5008
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1 プララSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
金沢文庫レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
桜井産婦人科	港北区日吉本町1-29-16	563-6311
マザーズ高田産医院	港北区高田西2-5-27	595-4103
あまかす医院	緑区白山1-1-3	931-2404
産婦人科クリニックさくら	青葉区新石川2-9-3	911-9936
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
つづきレディースクリニック	都筑区中川中央1-2-1-4F	910-0234
やすこレディースクリニック	都筑区茅ヶ崎中央17-26 ビクトリアセンター南201	948-2567
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4階B号室	822-3333
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
おおご泌尿器科クリニック	栄区小菅ヶ谷1-5-1	410-8015
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27 ネクストアイ3F	805-5808
まきずみ泌尿器科	瀬谷区瀬谷3-1-29 瀬谷メディカルプラザ2F	300-3711

基幹病院定点(4)

医療機関名	所在地	電話番号
横浜市立市民病院	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

病原体定点(17)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科（小児科）	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
横浜市立市民病院（基幹）	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580
室橋内科医院（内科）	中区本牧三之谷23-16	621-0139
秋山眼科医院（眼科）	中区尾上町3-28	641-9361
片山こどもクリニック（小児科）	港南区上大岡西2-3-6 ビルディングアルタ2F	844-7577
済生会横浜市南部病院（基幹）	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院（基幹）	旭区矢指町1197-1	366-1111
さいとう小児科（小児科）	磯子区岡村7-20-14	752-4882
いとうファミリークリニック（内科）	金沢区谷津町378	783-5769
石井内科医院（内科）	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック（小児科）	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科（小児科）	青葉区美しが丘2-20-18 トムス有本101	901-6870
はやし小児科医院（小児科）	青葉区松風台13-5 ライムライト松風台3	983-3254
昭和大学藤が丘病院（基幹）	青葉区藤が丘1-30	971-1151
内科小児科むかひら医院（内科）	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
はっとり小児科（小児科）	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOビル2F	804-4153
ひかりこどもクリニック（小児科）	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

疑似症定点(10)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市東部病院	鶴見区下末吉3-6-1	576-3000
横浜市立市民病院	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580
けいゆう病院	西区みなとみらい3-7-3	221-8181
横浜市立みなと赤十字病院	中区新山下3-12-1	628-6100
横浜市立大学附属 市民総合医療センター	南区浦舟町4-57	261-5656
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
横浜市立大学附属病院	金沢区福浦3-9	787-2800
横浜労災病院	港北区小机町3211	474-8111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制 定 平成 12 年 11 月 27 日 衛感第 340 号 (局長決裁)

最近改正 令和 5 年 5 月 26 日 医健第 2035 号 (局長決裁)

第 1 趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」(以下「国要綱」という。)を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

第 2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

1 全数把握の対象

一類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

二類感染症

(8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属 S A R S コロナウイルスであるものに限る。)、(12) 中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属 M E R S コロナウイルスであるものに限る。)、(13) 鳥インフルエンザ (H5N1)、(14) 鳥インフルエンザ (H7N9)

三類感染症

(15) コレラ、(16) 細菌性赤痢、(17) 腸管出血性大腸菌感染症、(18) 腸チフス、(19) パラチフス

四類感染症

(20) E 型肝炎、(21) ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)、(22) A 型肝炎、(23) エキノコックス症、(24) エムポックス、(25) 黄熱、(26) オウム病、(27) オムスク出血熱、(28) 回帰熱、(29) キャサヌル森林病、(30) Q 熱、(31) 狂犬病、(32) コクシジオイデス症、(33) ジカウイルス感染症、(34) 重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属 S F T S ウイルスであるものに限る。)、(35) 腎症候性出血熱、(36) 西部ウマ脳炎、(37) ダニ媒介脳炎、(38) 炭疽、(39) チクングニア熱、(40) つつが虫病、(41) デング熱、(42) 東部ウマ脳炎、(43) 鳥インフルエンザ (H5N1 及び H7N9 を除く。)、(44) ニパウイルス感染症、(45) 日本紅斑熱、(46) 日本脳炎、(47) ハンタウイルス肺症候群、(48) B ウイルス病、(49) 鼻疽、(50) ブルセラ症、(51) ベネズエラウマ脳炎、(52) ヘンドラウイルス感染症、(53) 発しんチフス、(54) ボツリヌス症、(55) マラリア、(56) 野兔病、(57) ライム病、(58) リッサウイルス感染症、(59) リフトバレー熱、(60) 類鼻疽、(61) レジオネラ症、(62) レプトスピラ症、(63) ロッキー山紅斑

熱

五類感染症（全数）

(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、(66)カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺（ポリオを除く。）、(68)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群 (73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症

(113)新型インフルエンザ、(114)再興型インフルエンザ、(115)新型コロナウイルス感染症、(116)再興型新型コロナウイルス感染症

指定感染症

該当なし

2 定点把握の対象

五類感染症（定点）

(88)RSウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(90)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(91)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(92)感染性胃腸炎、(93)急性出血性結膜炎、(94)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(95)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(96)新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）、(97)水痘、(98)性器クラミジア感染症、(99)性器ヘルペスウイルス感染症、(100)尖圭コンジローマ、(101)手足口病、(102)伝染性紅斑、(103)突発性発しん、(104)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(105)ヘルパンギーナ、(106)マイコプラズマ肺炎、(107)無菌性髄膜炎、(108)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(109)薬剤耐性緑膿菌感染症、(110)流行性角結膜炎、(111)流行性耳下腺炎、(112)淋菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症（定点）

(117)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般的に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

法第 14 条第 8 項の規定に基づく把握の対象

(118)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断し、都道府県知事が指定届出機関以外の病院又は診療所の医師に法第 14 条第 8 項に基づき届出を求めたもの。

第 3 実施主体

実施主体は、医療局健康安全課（以下「医療局」という。）、衛生研究所及び各区福祉保健センター（以下「福祉保健センター」という。）とする。

第 4 実施体制の整備

1 横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、医療局及び福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

(1) 医療局は、定点把握対象の感染症について、患者及び当該感染症により死亡した者（法第 14 条第 1 項の厚生労働省令で定める五類感染症に限る。）の情報及び疑似症情報を収集するため、法第 14 条第 1 項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

(2) 医療局は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下、「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。なお、法施行規則第 7 条の 3 に規定する五類感染症については、法第 14 条の 2 第 1 項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定し、神奈川県へ進達する。

3 横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び医療局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

4 検査施設

横浜市内における本事業に係る検体等の検査については、横浜市衛生研究所の検査施設（以下、「衛生研究所」という。）において、実施する。衛生研究所は、「検査施設における病原体

等の検査の業務管理要領」(健感発 1117 第 2 号平成 27 年 11 月 27 日厚生労働省健康局結核感染症課長通知。以下「病原体検査要領」という。)に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

また、医療局は、横浜市内における検査が適切に実施されるよう施設間の役割を調整する。

第 5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症(第 2 の(75)、(85)及び(86))、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断又は検案した医師

国要綱に定めるとおりとする。感染症サーベイランスシステム(以下、「システム」とする。)への入力により届出を行うことを基本とするが、入力環境がない場合には書面による届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

福祉保健センター等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあつては、検体等について、別記様式 1「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票(病原体)」(以下、別記様式 1 という。)の検査票を添付して提供する。

ウ 福祉保健センター

- (ア) 届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、届出をシステム上または書面で受け付ける。書面による届出の場合、感染症情報センター及び医療局に送付する。
- (イ) 福祉保健センターは、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の衛生研究所への提供について、別記様式 1 を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び医療局と協議する。
- (ウ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式 1 を添付して、衛生研究所へ検査を依頼するものとする。
- (エ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式 1 等により速やかに送付する。
- (オ) なお、迅速な対応が必要な疾患については、医療局と協議の上、対応する。

エ 医療局

- (ア) 医療局は、福祉保健センターがウ(ア)による届出を受け付けた場合、直ちに、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。
- (イ) 医療局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報

提供し連携を図る。

- (ウ) 感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。
- (エ) 緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報収集を行うとともに、国及び都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。
- (オ) 迅速な対応が必要と保健所長が定める疾患については、福祉保健センターが行うウ(イ)から(エ)までの対応は、医療局が行う。
- (カ) 医療局は横浜市外に居住する者について、法第 12 条第 1 項の規定による届出を受けたときは、該当届出の内容を、その居住地を管轄する都道府県等に通報する。
- (キ) 医療局は厚生労働省に対して、法第 12 条第 1 項の規定による届出の一連の事務の中で同条第 2 項の報告を行う場合、または、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の一連の事務の中で、同条第 13 項の報告を行う場合は併せて神奈川県へ報告する。
- (ク) 医療局は横浜市外における感染症のまん延を防止するために必要な場合は、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の結果を当該都道府県等へ通報する。
- (ケ) (キ)の法第 12 条の規定による報告について、システムにより相互に情報を閲覧できる措置を講じることで、厚生労働省及び神奈川県へ当該報告をしたものとみなす。

オ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターがウ(ア)による届出を受け付けた場合、直ちに、届出情報の確認を行う。書面による届出の場合、届出内容をシステムに入力する。情報について医療機関に確認が必要な場合には医療局または福祉保健センターへ情報提供を行う。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、医療局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、別記様式 1 及び検体等が送付された場合にあつては、別に定める病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を別記様式 1 により福祉保健センターに送付する。福祉保健センターは、別記様式 1 により診断した医師に通知する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた感染症の集団発生があつた場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあつては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

2 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、医療局は横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、行政区人口を保健所管内人口とみなして国要綱に定めるとおりとする。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、医療局は医師会等の協力を得て原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるように考慮する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、保健所管内人口について国要綱に定めるとおりとする。

(3) 調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。

(イ) 2の(ア)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を報告する。システムへの入力により報告を行うことを基本とするが、入力環境がない場合には書面により福祉保健センター又は感染症情報センターへ報告を行う。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等を採取する。

(イ) 病原体定点は、検体等について、別記様式2「病原体定点からの検査依頼書」(以下、「別記様式2」という。)を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。

(ウ) (2)のイにより選定された小児科病原体定点においては、第2の(88)から(97)に

- ついて、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類を送付する。
- (エ) (2)のイにより選定されたインフルエンザ病原体定点においては、第2の(98)に掲げるインフルエンザ(インフルエンザ様疾患を含む。)について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を採取し、衛生研究所と協議のもと、医療局の定める単位ごとに送付するものとする。

ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合に当たっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式1を添付して提供する。

エ 福祉保健センター

- (ア) 福祉保健センターは、ア(イ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症情報センターへ送付し、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても、感染症情報センター及び医療局へ報告する。また、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式1を添付して依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び医療局と協議する。
- (イ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1を添付して衛生研究所へ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式1により速やかに送付する。

オ 医療局

医療局は、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

カ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、患者定点又は福祉保健センターから患者情報の報告があり次第、届出情報の確認を行う。書面による報告の場合、システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、医療局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

キ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、イ(イ)により別記様式2及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式2により病原体定点に通知するとともに、医療局及び感染症情報センターに送付する。感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 衛生研究所は、エ(イ)により別記様式1及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果は福祉保健センターを経由して、診断した医師に通知するとともに、別記様式1により福祉保健センター、医療局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (ウ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

3 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症（定点）

(1) 対象とする疑似症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、医療局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるように考慮し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から疑似症定点を選定する。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める届出基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- (イ) (2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則としてシステムへの入力により実施することとする。
- (ウ) (イ)の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行う。

イ 医療局

医療局は、疑似症の発生状況等を把握し、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合におい

ては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び都道府県とも連携の上、迅速な対応を行う。

ウ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、疑似症定点においてシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、システムに入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても、医療局および中央感染症情報センターへ報告する。

(イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、医療局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

第6 その他

1 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等について、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規定に従い行うものとする。

2 本要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて医療局長が定めることとする。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱は、平成15年11月5日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成20年1月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 20 年 5 月 12 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 23 年 2 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 27 年 1 月 21 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 の 1 の対象感染症に係る改正については、平成 28 年 2 月 15 日から適用する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票は、当面の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 30 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和 2 年 2 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和 2 年 7 月 21 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和5年5月8日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和5年5月26日から施行する。

別記様式一覧表

別記様式1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票

別記様式2 病原体定点からの検査依頼書（3枚複写式）

(医療機関控)

(衛生研究所控)

(医療機関あて検査結果通知用)

横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正 令和5年3月28日 健健安第8825号（局長決裁）

（設置）

第1条 横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号。以下「法」という。）第16条の規定に基づき、法第12条から第15条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

（組織）

第3条 委員会は、委員6人以上10人以下をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから医療局長が任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 横浜市医師会を代表する者
- (3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

（委員の任期）

第4条 委員の任期は、3年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第6条 委員会の会議は、委員長が毎月1回、その他必要に応じて招集する。

（議事の運営）

第7条 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

(関係者の出席等)

第8条 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、医療局において処理する。

(その他)

第10条 本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成14年1月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年5月24日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

令和6年1月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増加しています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 感染性胃腸炎が多く発生し、集団感染の報告数も増加しています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心として多く発生しており、注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年1月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	3件	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件
E型肝炎	3件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
A型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
デング熱	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	9件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	21件
ウイルス性肝炎	1件	百日咳	1件

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:50歳代～70歳代で、血清群O157が2件、血清群不明が1件です。いずれも感染経路等不明です。
- 2 **E型肝炎**:30歳代～80歳代で、経口感染と推測される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件です。
- 3 **A型肝炎**:50歳代及び80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、いずれも経口感染と推定されています。
- 4 **デング熱**:10歳未満と30歳代で、いずれも蚊からの感染(海外)と推定されています。
- 5 **レジオネラ症**:70歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 6 **アメーバ赤痢**:40歳代～60歳代で、性的接触(同性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
- 7 **ウイルス性肝炎**:30歳代で、ウイルス型はB型(ワクチン接種歴無)、性的接触(同性間)と推定されています。
- 8 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70歳代～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:50歳代～70歳代で、いずれも血清群はA群で、創傷感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
- 10 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70歳代(ワクチン接種歴不明)、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**:20歳～90歳代(ワクチン接種歴2回1件、無4件、不明4件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が5件ありました。
- 12 **水痘(入院例に限る)**:60歳代(ワクチン接種歴不明)で、接触感染と推定されています。
- 13 **梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件、無症状病原体保有者が6件です。性的接触による感染と推定される報告が18件(異性間16件、同性間1件、詳細不明1件)、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 14 **百日咳**:10歳未満(ワクチン接種歴4回)で、感染経路等不明です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

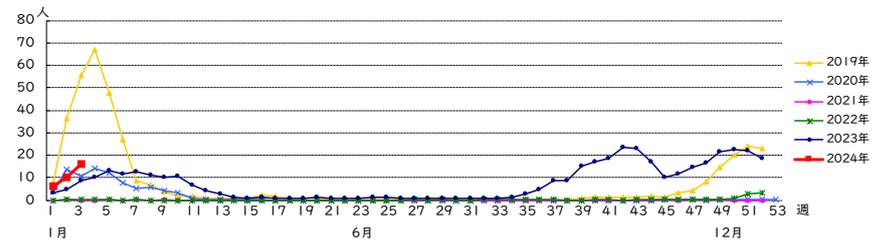
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryoeiken/>

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2023年第51週	12月18日～12月24日
第52週	12月25日～12月31日
2024年第1週	1月1日～1月7日
第2週	1月8日～1月14日
第3週	1月15日～1月21日

1 インフルエンザ

2023年第39週に流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。第45週以降、再び増加傾向に転じ、第3週は15.86です。詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報18号をご覧ください。



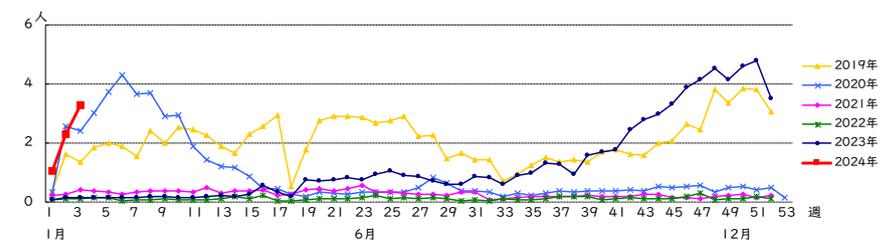
2 新型コロナウイルス感染症

2023年5月8日(第19週)より定点報告となりました。第47週以降再び増加傾向に転じ、第3週は8.09です。



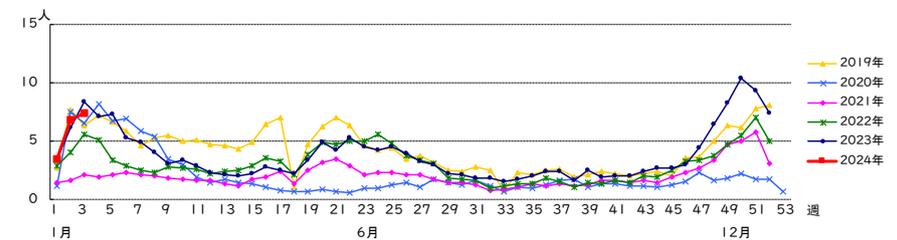
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第39週以降増加傾向が続き、第3週は3.28です。過去5年間の同時期と比較し多くなっています。



4 感染性胃腸炎

第41週以降増加傾向が続き、第47週以降の増加が顕著です。第3週は7.40です。



5 性感染症(12月)

性器クラミジア感染症	男性:36件	女性:15件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:11件	女性:5件	淋菌感染症	男性:23件	女性:2件

6 基幹定点週報

	第51週	第52週	第1週	第2週	第3週
細菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.00	0.00	0.5	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

7 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	13件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和6年2月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの報告が、依然として続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心として多く発生しており、注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年2月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	5件	急性弛緩性麻痺	1件
E型肝炎	4件	急性脳炎	2件
A型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
レジオネラ症	5件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	9件	梅毒	28件

- 腸管出血性大腸菌感染症**:20歳代～50歳代で、血清群O157が2件、O20が1件、血清群不明が2件です。経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件です。
- E型肝炎**:30歳代～80歳代で、経口感染と推定される報告が3件、感染経路等不明の報告が1件です。
- A型肝炎**:80歳代(ワクチン接種歴無)で、経口感染と推定されています。
- レジオネラ症**:60歳代～80歳代で、水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件です。
- アメーバ赤痢**:50歳代～60歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:10歳未満～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 急性弛緩性麻痺**:10歳代で、病原体不明、感染経路等不明です。
- 急性脳炎**:10歳未満～50歳代で、病原体はVZVが1件、不明が1件です。いずれも感染経路等不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～80歳代で、性的接触(同性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)、いずれも型別不明です。接触感染と推定される報告が1件、その他とされる報告が1件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回2件、無2件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 梅毒**:10歳代～50歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期14件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者7件です。性的接触による感染と推定される報告が27件(異性間19件、同性間4件、詳細不明4件)、感染経路等不明の報告が1件ありました。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

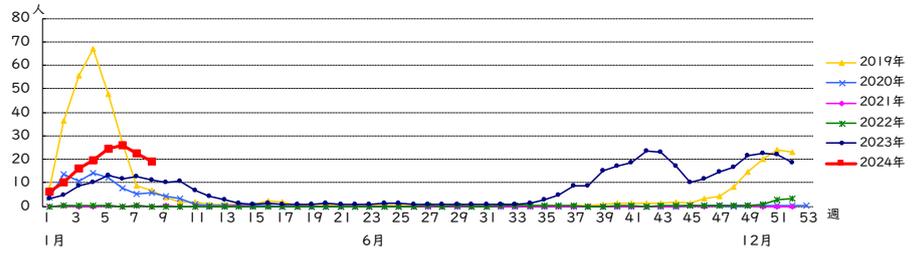
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryoeiken/>

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年第4週	1月22日～1月28日
第5週	1月29日～2月4日
第6週	2月5日～2月11日
第7週	2月12日～2月18日
第8週	2月19日～2月25日

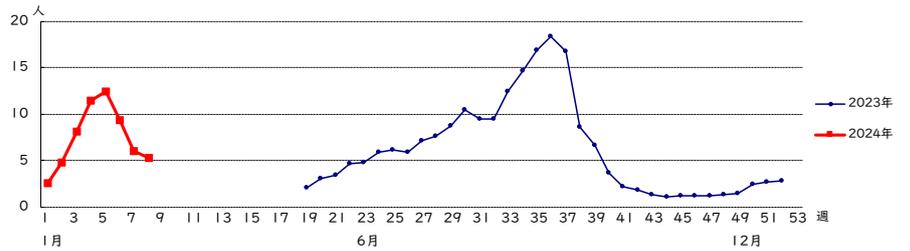
1 インフルエンザ

2023年第39週に流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。2024年第1週以降、増加傾向が継続しましたが、第8週は19.03です。詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報23号をご覧ください。



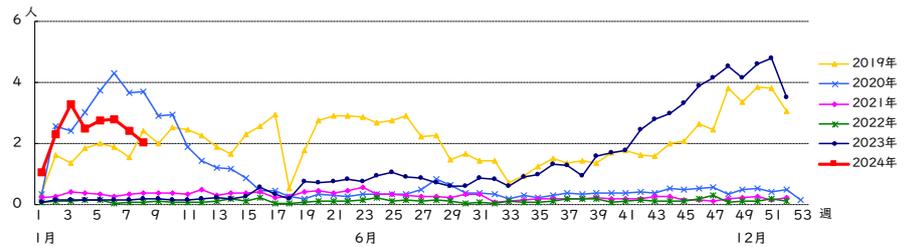
2 新型コロナウイルス感染症

2023年5月8日(第19週)より定点報告となりました。2024年第1週以降、増加傾向が継続しましたが、第6週以降減少傾向に転じ、第8週は5.30です。



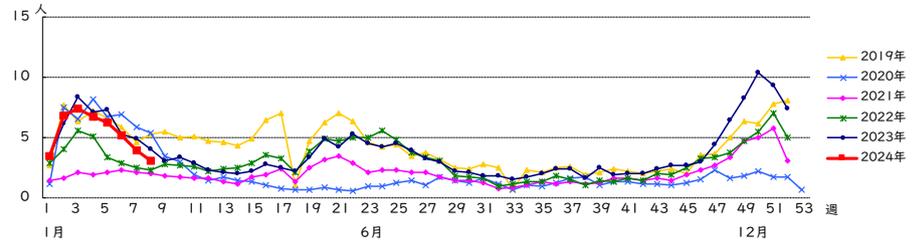
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年第1週以降、増加傾向が継続しましたが、第4週以降減少傾向に転じ、第8週は2.03です。



4 感染性胃腸炎

2024年第4週以降、減少傾向に転じ、第8週は3.04です。



5 性感染症(2024年1月)

性器クラミジア感染症	男性:39件	女性:29件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:17件	女性:4件
尖圭コンジローマ	男性:7件	女性:0件	淋菌感染症	男性:15件	女性:6件

6 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

7 基幹定点月報(2024年1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	15件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和6年3月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの報告が、依然として続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 梅毒は20歳代を中心として幅広い年齢層で発生しており、注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年3月期に報告された全数把握疾患>

E型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	4件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
急性脳炎	2件	梅毒	19件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	百日咳	1件

- 1 **E型肝炎**:50歳代~70歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
- 2 **レジオネラ症**:40歳代~80歳代で、水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件です。
- 3 **アメーバ赤痢**:40歳代~60歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 4 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:40歳代~90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 5 **急性脳炎**:いずれも10歳未満で、病原体は不明、感染経路等も不明です。
- 6 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:70歳代~80歳代で、血清群はA群が1件、B群が1件、G群が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
- 7 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:40歳代~50歳代で、性的接触(同性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
- 8 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 9 **侵襲性肺炎球菌感染症**:90歳代(ワクチン接種歴1回)で、感染経路等不明です。
- 10 **水痘(入院例に限る)**:90歳代(ワクチン接種歴不明)で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 11 **梅毒**:20歳代~80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者4件です。性的接触による感染と推定される報告が16件(異性間13件、同性間1件、詳細不明2件)、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 12 **百日咳**:10歳代(ワクチン接種歴4回)で、感染経路等不明です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

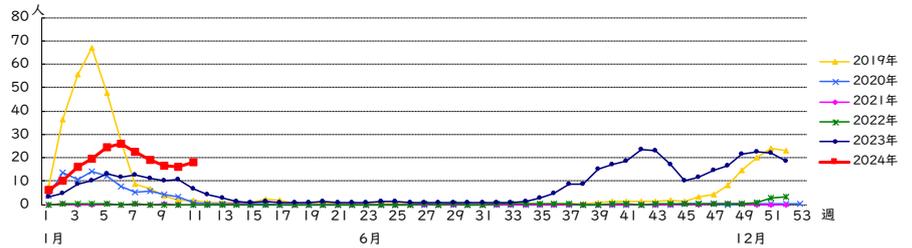
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年 第9週	2月26日～3月 3日
第10週	3月 4日～3月10日
第11週	3月11日～3月17日

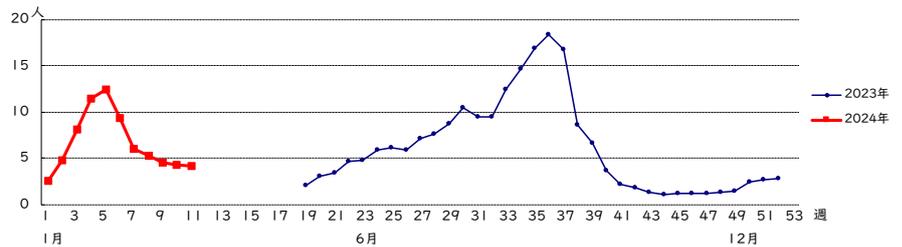
1 インフルエンザ

2023年第39週に流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。2020年以降の動向と比較すると報告数が多く、第11週は18.22です。詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報26号をご覧ください。



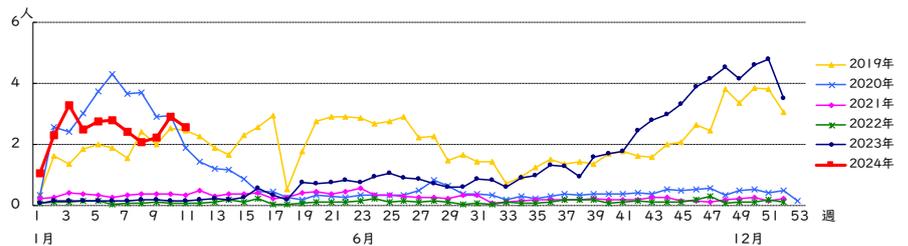
2 新型コロナウイルス感染症

2024年第1週以降、増加傾向でしたが、第6週以降は減少傾向に転じ、第11週は4.19です。



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年第4週以降、過去5年と比較しやや多い状態で推移しています。第11週は2.55です。



4 性感染症(2024年2月)

性器クラミジア感染症	男性:22件	女性:18件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性:12件
尖圭コンジローマ	男性: 5件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:14件	女性: 3件

5 基幹定点週報

	第9週	第10週	第11週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和6年4月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎やRSウイルス感染症など、患者が多く発生しています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生しており、注意が必要です。先天梅毒も報告されています。
- 海外渡航の際は、食べ物や水、動物や蚊・マダニ対策など、予防と準備を忘れずに行いましょう。

◇ 全数把握の対象 <2024年3月18日～4月21日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	3件	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件
腸チフス	1件	急性脳炎	1件
E型肝炎	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6件
エムポックス	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
レジオネラ症	4件	水痘(入院例に限る)	3件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	29件
ウイルス性肝炎	1件	百日咳	2件

1. **腸管出血性大腸菌感染症**:20歳代～60歳代で、O血清群はO26が2件、不明が1件です。いずれも感染経路等は不明です。
2. **腸チフス**:60歳代で、感染経路等不明です。
3. **E型肝炎**:70歳代で、経口感染と推定されています。
4. **エムポックス**:いずれも40歳代で、性的接触(異性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
5. **デング熱**:20歳代で、国外での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定されています。
6. **レジオネラ症**:40歳代～60歳代で、水系感染または塵埃感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
7. **アメーバ赤痢**:50歳代～70歳代で、経口感染と推定される報告が1件、性的接触(異性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
8. **ウイルス性肝炎**:30歳代で、病原体はEBVです。感染経路は性的接触(異性間)と推定されています。
9. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:10歳代～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
10. **急性脳炎**:20歳代で、病原体は不明です。感染経路等も不明です。
11. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:40歳代～80歳代で、血清群はA群が5件、G群が1件です。感染経路はいずれも創傷感染と推定されています。
12. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代で、感染経路は性的接触(異性間)と推定されています。
13. **侵襲性肺炎球菌感染症**:50歳代～90歳代(ワクチン接種歴1回有1件、無2件、不明2件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が4件です。
14. **水痘(入院例に限る)**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴2回有1件、不明2件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
15. **梅毒**:10歳未満～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期9件、無症状病原体保有者11件、先天梅毒が1件です。性的接触による感染と推定される報告が26件(異性間20件、同性間1件、異性間・同性間2件、詳細不明3件)、母子感染1件、感染経路等不明の報告が2件です。
16. **百日咳**:10歳未満～30歳代(ワクチン接種歴4回1件、不明1件)で、家庭内感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/>

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年第12週	3月18日～3月24日
第13週	3月25日～3月31日
第14週	4月1日～4月7日
第15週	4月8日～4月14日
第16週	4月15日～4月21日

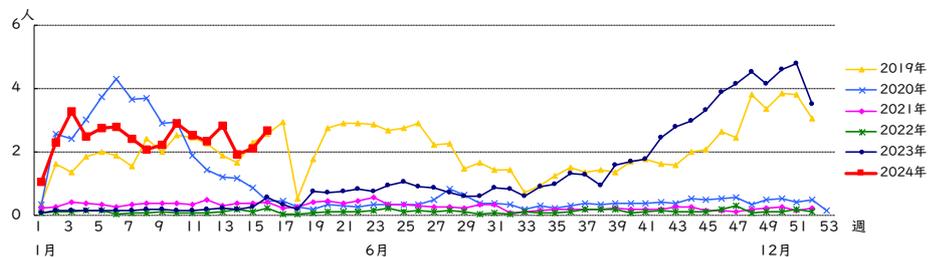
1 新型コロナウイルス感染症

2024年第5週(12.45)をピークに減少し、その後横ばいの状態で推移しています。
第16週は3.05です。



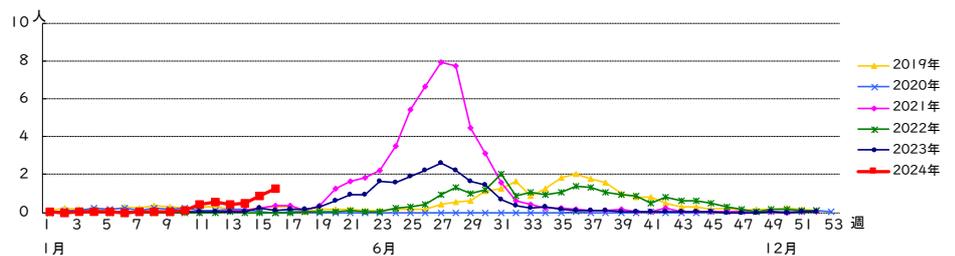
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年第16週は2.67で、第14週以降増加が続きます。過去5年間の同時期と比較し、患者数が多い状態で推移しています。



3 RSウイルス感染症

2024年第11週以降増加傾向がみられ、第16週は1.28となっています。過去5年間の同時期と比較し、患者数がやや多い状態で推移しています。



4 性感染症(2024年3月)

性器クラミジア感染症	男性:37件	女性:15件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:12件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:10件	女性:3件	淋菌感染症	男性:16件	女性:3件

5 基幹定点週報

	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	1件	-	-

令和6年5月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症の報告が続いています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生しており、注意が必要です。妊婦の報告もみられます。
- 侵襲性肺炎球菌感染症が多く報告されています。

◇ 全数把握の対象 <2024年4月22日～5月19日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
E型肝炎	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	16件
アメーバ赤痢	1件	水痘(入院例に限る)	2件
急性脳炎	1件	梅毒	32件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件	百日咳	1件

1. **腸管出血性大腸菌感染症**:30歳代～50歳代で、O血清群はO157が1件、O91が1件、O26が1件です。いずれも感染経路等は不明です。
2. **E型肝炎**:40歳代～70歳代で、経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件です。
3. **アメーバ赤痢**:50歳代で、感染経路等不明です。
4. **急性脳炎**:20歳代で、病原体は不明です。感染経路等も不明です。
5. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:80歳代～90歳代で、血清群はG群が2件、血清群不明が1件です。創傷感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件です。
6. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～50歳代で、感染経路は性的接触(同性間3件、詳細不明1件)と推定されています。
7. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:90歳代で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
8. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回5件、1回2件、無4件、不明5件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明が13件です。
9. **水痘(入院例に限る)**:20歳代～80歳代(ワクチン接種歴不明2件)で、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が1件です。
10. **梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期13件、早期顕症梅毒Ⅱ期12件、無症状病原体保有者7件です。性的接触による感染と推定される報告が30件(異性間25件、同性間3件、詳細不明2件)、感染経路等不明の報告が2件です。
11. **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**:70歳代で、感染経路等は不明です。
12. **百日咳**:10歳代(ワクチン接種歴4回有)で、感染経路等不明です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

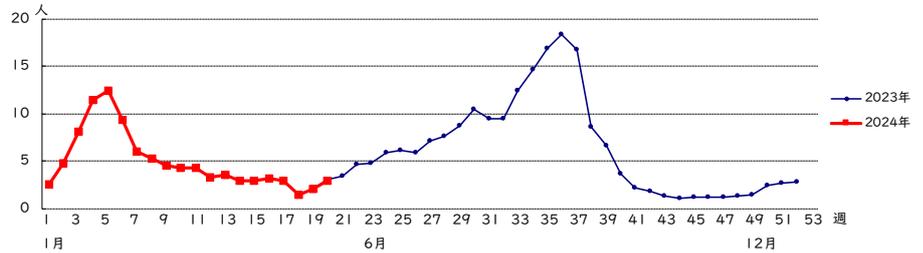
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryō-fukushi/kenko-iryō/eiken/>

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年第17週	4月22日～4月28日
第18週	4月29日～5月5日
第19週	5月6日～5月12日
第20週	5月13日～5月19日

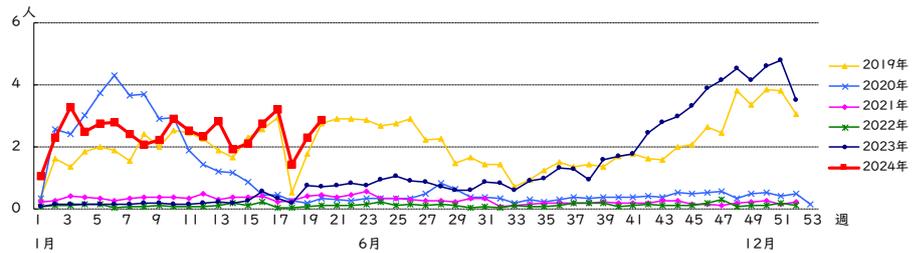
1 新型コロナウイルス感染症

2024年第5週(12.45)をピークに減少し、その後横ばいの状態で推移しています。第20週は2.91です。



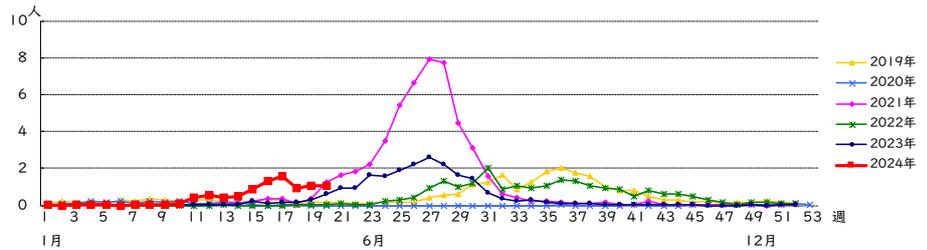
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年第20週は2.84で、年始からほぼ一定の水準で推移しています。



3 RSウイルス感染症

例年より早い時期に報告数が増加し、2024年第17週に1.59まで増加しました。第20週は1.07です。



4 性感染症(2024年4月)

性器クラミジア感染症	男性:33件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:12件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:11件	女性:4件	淋菌感染症	男性:8件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第17週	第18週	第19週	第20週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年4月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和6年6月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が増加しています。
- 手足口病の報告が増加しています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が続いています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生しており、より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年5月20日～6月23日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	9件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
E型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
レジオネラ症	6件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌症	5件	梅毒	39件
急性脳炎	3件	破傷風	2件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7件	百日咳	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件		

1. **腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳代～60歳代で、O血清群はO26が2件、O63、O103、O146、O157がそれぞれ1件、O血清不明が3件です。経口感染と推測される報告が2件、感染経路等不明の報告が7件です。
2. **E型肝炎**: いずれも50歳代で、感染経路等不明です。
3. **レジオネラ症**: 60歳代～80歳代で、いずれも肺炎型です。水系感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が2件です。
4. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**: 60歳代～80歳代で、医療器具関連感染と推定される報告が1件、以前からの保菌と推定される報告が1件、その他の感染経路が推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
5. **急性脳炎**: 10歳未満～80歳代で、病原体は単純ヘルペスウイルス2件(70歳代及び80歳代)、肺炎球菌が1件(10歳未満)です。飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
6. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 10歳未満～90歳代で、血清型A群が3件、B群が1件、G群が2件、血清群不明が1件です。感染経路は創傷感染と推定される報告が3件、感染経路等不明が4件報告されています。
7. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 30歳代～40歳代で、いずれも性的接触(同性間3件、異性間1件、異性間・同性間1件)と推定されています。
8. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 80歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
9. **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴4回2件、無2件、不明3件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が3件、感染経路等不明が4件です。
10. **水痘(入院例に限る)**: 10歳未満(ワクチン接種歴無)で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
11. **梅毒**: 10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期19件、早期顕症梅毒Ⅱ期12件、無症状病原体保有者8件です。性的接触による感染と推定される報告が37件(異性間34件、詳細不明3件)、感染経路等不明の報告が2件です。
12. **破傷風**: 70歳代～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
13. **百日咳**: 10歳代(ワクチン接種歴4回有)で、感染経路等不明です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

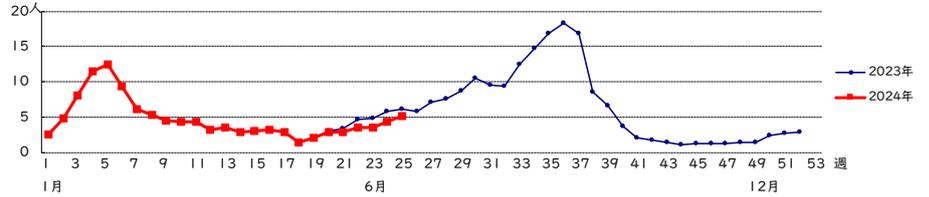
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/>

報告週対応表	
2024年第21週	5月20日～5月26日
第22週	5月27日～6月2日
第23週	6月3日～6月9日
第24週	6月10日～6月16日
第25週	6月17日～6月23日

◇ 定点把握の対象

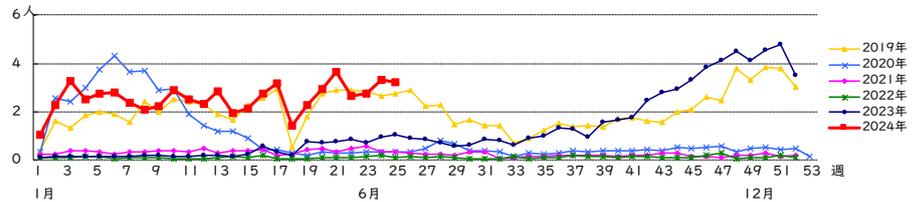
1 新型コロナウイルス感染症

2024年第5週(12.45)をピークに減少し、その後横ばいの状態で推移していましたが、5月以降増加傾向です。第25週は5.01です。



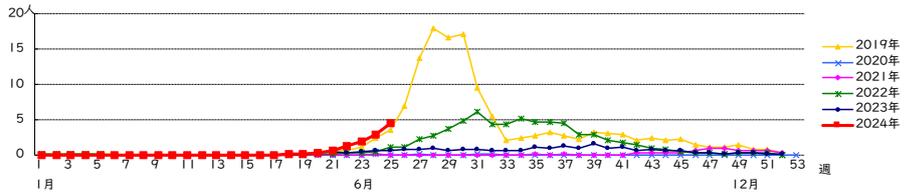
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年第25週は3.23で、年始からほぼ一定の水準で推移しています。



3 手足口病

例年より早い時期から報告数が増加しています。第25週は4.53です。



4 性感染症(2024年5月)

性器クラミジア感染症	男性:37件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:14件	女性:2件
尖圭コンジローマ	男性:17件	女性:2件	淋菌感染症	男性:19件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.25	0.50	0.33
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.25	0.75	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.50	0.50	0.75	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和6年7月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 手足口病の報告が続いています。流水と石けんでのこまめな手洗いを心がけましょう。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が増加しています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多くなっています。肉などの食品は十分に加熱し、食事の前などにはしっかり手を洗いましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生しています。引き続き注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年6月24日～7月21日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	1件	急性弛緩性麻痺	1件
腸管出血性大腸菌感染症	13件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
E型肝炎	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6件
レジオネラ症	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	28件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	5件	百日咳	2件

1. **細菌性赤痢**: 40歳代で、経口感染と推定されています。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳代～70歳代で、O血清群はO157が7件、O26が2件、O103が1件、O血清不明が3件です。経口感染と推測される報告が4件、感染経路等不明の報告が9件です。
3. **E型肝炎**: いずれも50歳代で、経口感染と推測される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
4. **レジオネラ症**: 40歳代～70歳代で、いずれも肺炎型です。水系感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
5. **ウイルス性肝炎**: 10歳代で、病原体はB型肝炎ウイルスです。感染経路は針等の鋭利なものの刺入による感染または性的接触と推定されています。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**: 60歳代～90歳代で、手術部位感染と推定される報告が1件、以前の保菌と推定される報告が4件です。
7. **急性弛緩性麻痺**: 10歳代で、感染経路等不明です。
8. **クロイツフェルト・ヤコブ病**: 60歳代で、古典的CJDです。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 30歳～60歳代で、血清型A群が3件、G群が2件、血清群不明が1件です。その他の感染経路(蜂窩織炎1件、医療器具1件)と推定される報告が2件、感染経路等不明が4件です。
10. **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回2件、3回3件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明が3件です。
11. **梅毒**: 10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒I期14件、早期顕症梅毒II期9件、無症状病原体保有者5件です。性的接触による感染と推定される報告が27件(異性間21件、同性間2件、異性間・同性間1件、性別不詳3件)、感染経路等不明が1件です。
12. **百日咳**: 10歳未満～10歳代(ワクチン接種歴4回1件、不明1件)で、感染経路は周囲の流行によるものと推定される報告が1件、家族内感染と推定される報告が1件です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

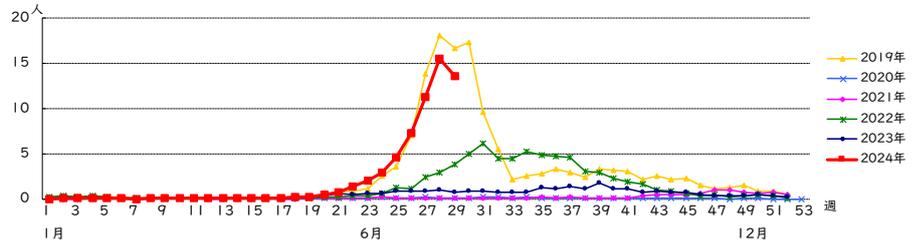
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/>

報告週対応表	
2024年第26週	6月24日～6月30日
第27週	7月1日～7月7日
第28週	7月8日～7月14日
第29週	7月15日～7月21日

◇ 定点把握の対象

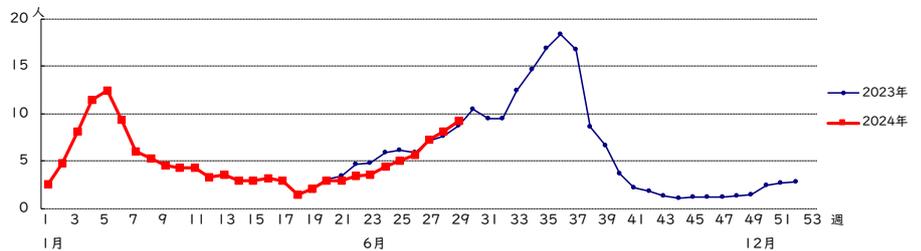
1 手足口病

例年より早い時期に報告数が増加しはじめました。2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第29週は13.55です。横浜市感染症臨時情報も併せてご覧ください。



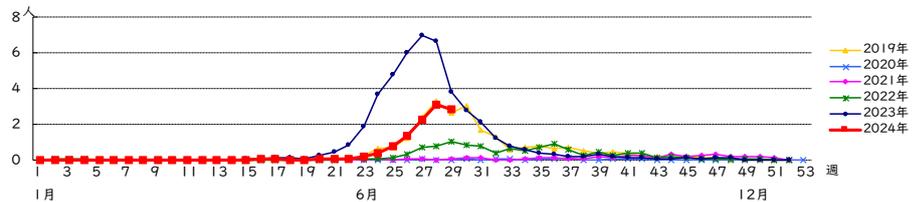
2 新型コロナウイルス感染症

2024年第5週(12.45)をピークに減少し、その後横ばいの状態で推移していましたが、5月以降増加傾向が続いています。第29週は9.21です。



3 ヘルパンギーナ

2024年第22週以降増加しはじめました。第28週は3.13、第29週は2.89です。



4 性感染症(2024年6月)

性器クラミジア感染症	男性:49件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:16件	女性:2件	淋菌感染症	男性:19件	女性:0件

5 基幹定点週報

	第26週	第27週	第28週	第29週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.50	0.75	1.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.25	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和6年8月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 百日咳、マイコプラズマ肺炎の報告が増加しています。
- 手足口病の報告が続いています。流水と石けんでのこまめな手洗いを心がけましょう。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生し、妊婦の報告もみられます。より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年7月22日～8月18日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	2件	急性脳炎	2件
腸管出血性大腸菌感染症	10件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5件
腸チフス	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	2件	水痘(入院例に限る)	3件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	38件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件	百日咳	8件

1. **細菌性赤痢**:40歳代及び50歳代で、いずれも Sonnei(D群)、国外での経口感染と推定されています。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～70歳代で、O血清群はO157が7件、O103が1件、O血清不明が2件です。経口感染と推測される報告が3件、感染経路等不明の報告が7件です。
3. **腸チフス**:30歳代で、国外での感染と推定されています。
4. **A型肝炎**:60歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
5. **レジオネラ症**:70歳代及び90歳代で、いずれも肺炎型です。感染経路等不明です。
6. **アメーバ赤痢**:60歳代で、経口感染と推定されています。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:50歳代～80歳代で、以前からの保菌と推定される報告が3件、医療器具関連感染と推定される報告が2件、手術部位感染と推定される報告が1件です。
8. **急性脳炎**:10歳未満及び10歳代で、いずれも病原体不明、感染経路等不明です。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:40歳～70歳代で、血清型A群が3件、G群が1件、血清群不明が1件です。創傷感染と推定される報告が2件、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
10. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～50歳代で、性的接触3件(異性間・同性間2件、同性間1件)、感染経路等不明が1件です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、無1件、不明2件)で、保菌と推定される報告が1件、感染経路等不明が3件です。
12. **水痘(入院例に限る)**:10歳代～50歳代(ワクチン接種歴1回2件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
13. **梅毒**:20歳代～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期15件、早期顕症梅毒Ⅱ期14件、無症状病原体保有者9件です。性的接触による感染と推定される報告が34件(異性間30件、同性間2件、性別不詳2件)、感染経路等不明が4件です。
14. **百日咳**:10歳未満～60歳代(ワクチン接種歴5回1件、4回5件、不明2件)で、家族内感染または周囲の流行による感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が7件です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

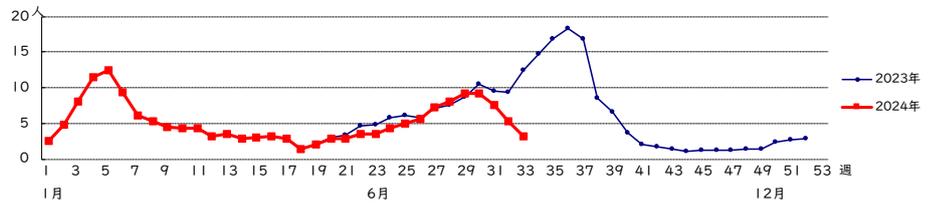
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/>

報告週対応表	
2024年第30週	7月22日～7月29日
第31週	7月30日～8月4日
第32週	8月5日～8月11日
第33週	8月12日～8月18日

◇ 定点把握の対象

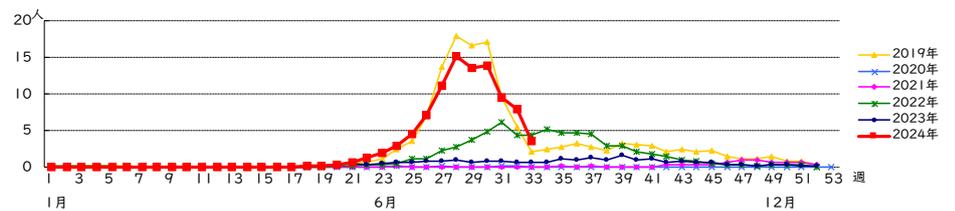
1 新型コロナウイルス感染症

2024年5月以降増加傾向が続いていましたが、第29週の9.15をピークに減少しています。第33週は3.13です。



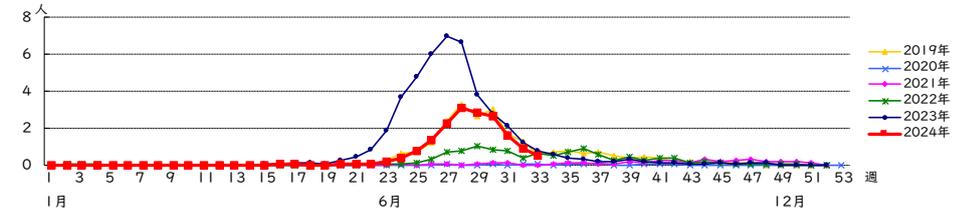
2 手足口病

2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第29週の15.27をピークに減少していますが、警報レベルは続いています。第33週は3.53です。



3 ヘルパンギーナ

2024年第22週以降増加しはじめました。第28週の3.14をピークに減少しており、第33週は0.56です。



4 性感染症(2024年7月)

性器クラミジア感染症	男性:51件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:18件	女性:0件	淋菌感染症	男性:14件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週
細菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.25
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.50	1.25	1.50	2.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和6年9月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 百日咳、伝染性紅斑、マイコプラズマ肺炎の報告が増加しています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多くなっています。肉などの食品は十分に加熱し、調理や食事の前、トイレの後などにはしっかり手を洗いましょう。
- 手足口病、新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生し、10代の報告、妊婦の報告もみられます。より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年8月19日～9月22日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	4件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件
腸管出血性大腸菌感染症	20件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件
E型肝炎	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	5件	梅毒	40件
アメーバ赤痢	2件	破傷風	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件	百日咳	23件
急性脳炎	2件	薬剤性アシネトバクター感染症	1件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件		

1. **細菌性赤痢**: 10歳未満～60歳代で、いずれも Sonnei (D群) です。いずれも国内での感染で、経口感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が3件です。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳未満～90歳代で、O血清群は O157 が14件、O103、O128、O145、O148 が各1件、O血清不明が2件です。経口感染と推測される報告が11件、経口感染又は接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が8件です。
3. **E型肝炎**: 40歳代及び80歳代で、いずれも経口感染と推定されています。
4. **レジオネラ症**: 50歳代～80歳代で、いずれも肺炎型です。水系感染と推定される報告が1件、塵埃^{じんあい}感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
5. **アメーバ赤痢**: 40歳代及び70歳代で、いずれも腸管アメーバ症です。いずれも感染経路等不明です。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**: 60歳代～90歳代で、以前からの保菌と推定される報告が2件、医療器具関連感染と推定される報告が1件、以前からの保菌又は手術部位感染と推定される報告が1件、以前からの保菌又は院内感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が1件です。
7. **急性脳炎**: 10歳未満及び70歳代で、病原体はいずれもヒトヘルペスウイルス6型(HHV6)です。感染経路等不明です。
8. **クロイツフェルト・ヤコブ病**: 70歳代で、古典的CJDです。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 30歳～80歳代で、血清型A群が2件、G群が1件、血清群不明が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が2件、感染経路等不明が1件です。
10. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 20歳代～50歳代で、AIDSが1件、無症状病原体保有者が4件です。同性間での性的接触と推定される報告が4件、感染経路等不明が1件です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、1回1件、無1件、不明1件)で、いずれも感染経路等不明です。
12. **梅毒**: 10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期14件、早期顕症梅毒Ⅱ期13件、無症状病原体保有者11件、晩期梅毒1件です。性的接触による感染と推定される報告が35件(異性間25件、同性間3件、性別不詳7件)、感染経路等不明が5件です。
13. **破傷風**: 60歳代(ワクチン接種歴不明)で、創傷感染と推定されています。
14. **百日咳**: 10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴5回1件、4回10件、無1件、不明11件)で、家族内感染と推定される報告が5件、周囲の流行による感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が17件です。
15. **薬剤耐性アシネトバクター感染症**: 40歳代で、感染経路等不明です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

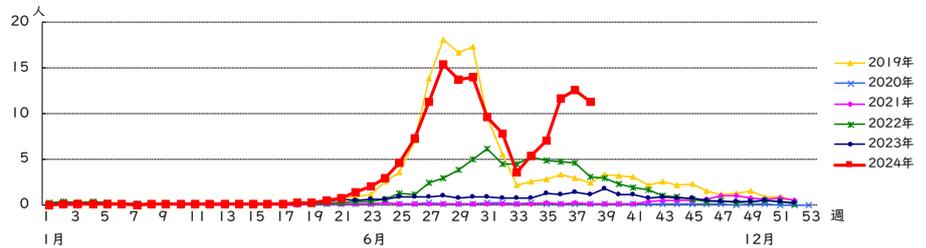
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/>

報告週対応表	
2024年第34週	8月19日～8月25日
第35週	8月26日～9月1日
第36週	9月2日～9月8日
第37週	9月9日～9月15日
第38週	9月16日～9月22日

◇ 定点把握の対象

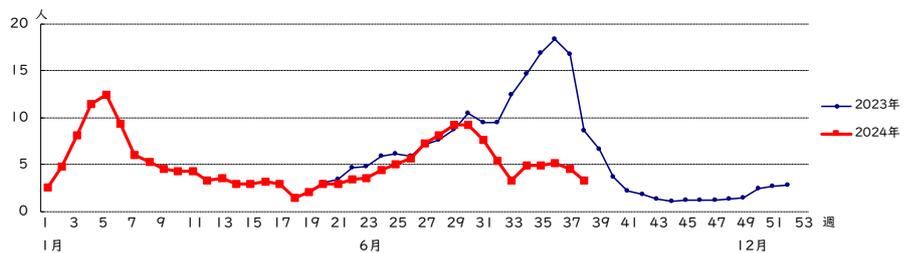
1 手足口病

2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第34週以降再び増加に転じ、第38週は11.22です。



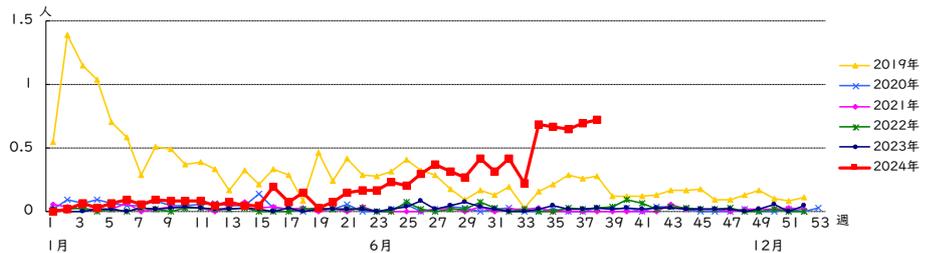
2 新型コロナウイルス感染症

2024年5月以降増加傾向が続いていましたが、第29週の9.15をピークに減少しています。第38週は3.13です。



3 伝染性紅斑

2024年第20週以降増加傾向がみられ、第34週以降は例年の同時期と比較し多い状態で推移しています。第38週は0.72です。



4 性感染症(2024年8月)

性器クラミジア感染症	男性:42件	女性:30件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:9件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:9件	女性:0件	淋菌感染症	男性:9件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.50	2.50	2.25	2.00	4.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和6年10月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- マイコプラズマ肺炎、伝染性紅斑の報告数が増加しています。百日咳、手足口病の報告も続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が引き続き多い傾向が続いています。肉などの食品は十分に加熱し、調理や食事の前、トイレの後などにはしっかり手を洗いましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心とした幅広い年齢層で患者が発生しており、引き続き注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年9月23日～10月20日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	16件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
レジオネラ症	4件	水痘(入院例に限る)	1件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	16件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	百日咳	5件

1. **腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳未満～90歳代で、O血清群はO157が12件、O128が1件、O血清不明が3件です。経口感染と推定される報告が9件、感染経路等不明の報告が7件です。
2. **E型肝炎**: いずれも60歳代で、経口感染と推定されています。
3. **A型肝炎**: 10歳代(ワクチン接種歴無)で、経口感染と推定されています。
4. **マラリア**: 10歳代で、海外での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定されています。
5. **レジオネラ症**: 50歳代～80歳代で、いずれも肺炎型です。水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件です。
6. **ウイルス性肝炎**: 20歳代で、B型(ワクチン接種歴不明)です。感染経路は性的接触と推定されています。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**: 30歳代～70歳代で、以前からの保菌と推定される報告が1件、医療器具関連感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件です。
8. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 90歳代で、血清型はG群です。創傷感染と推定されています。
9. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 60歳代で、感染経路は性的接触(同性間)と推定されています。
10. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: いずれも80歳代(ワクチン接種歴不明2件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**: いずれも80歳代(ワクチン接種歴無2件、不明1件)で、感染経路等不明です。
12. **水痘(入院例に限る)**: 70歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
13. **梅毒**: 20歳代～50歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件、無症状病原体保有者5件です。性的接触による感染と推定される報告が13件(異性間12件、同性間1件)、感染経路等不明が3件です。
14. **百日咳**: 10歳未満～40歳代(ワクチン接種歴4回1件、不明4件)で、いずれも感染経路等不明です。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

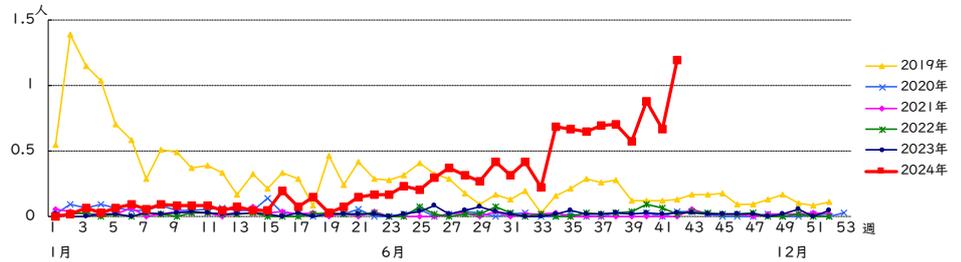
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/>

報告週対応表	
2024年第39週	9月23日～9月29日
第40週	9月30日～10月6日
第41週	10月7日～10月13日
第42週	10月14日～10月20日

◇ 定点把握の対象

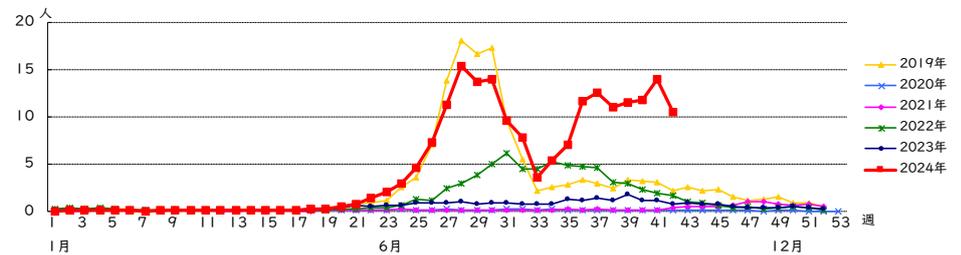
1 伝染性紅斑

2024年第20週以降増加傾向となり、特に第34週以降は例年よりもかなり高い値で推移しています。第42週は1.19です。



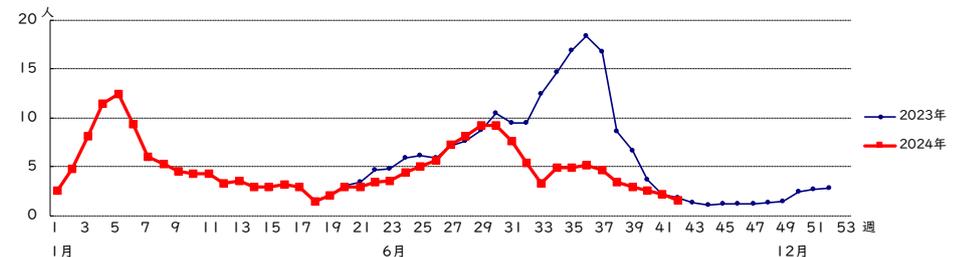
2 手足口病

2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第28週に15.27で1度目のピークを迎え、第41週には13.85で2度目のピークを迎えました。第42週は10.44です。



3 新型コロナウイルス感染症

2024年第19週以降増加傾向が続いていましたが、第29週の9.15をピークに減少傾向が続いています。第42週は1.55です。



4 性感染症(2024年9月)

性器クラミジア感染症	男性:35件	女性:35件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:11件	女性:3件
尖圭コンジローマ	男性:15件	女性:3件	淋菌感染症	男性:16件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第39週	第40週	第41週	第42週
細菌性髄膜炎	0.00	0.50	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.00	0.50
マイコプラズマ肺炎	4.25	2.50	4.25	3.75
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和6年11月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- インフルエンザが流行期に入りました。ワクチン接種など、早めの対策が大切です。
- マイコプラズマ肺炎、伝染性紅斑の報告数が増加しています。百日咳、手足口病の報告も続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が引き続き多い傾向が続いています。肉などの食品は十分に加熱し、調理や食事の前、トイレの後などにはしっかり手を洗いましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心とした幅広い年齢層で患者が多く発生しており、より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年10月21日～11月24日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件
腸管出血性大腸菌感染症	16件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	6件
E型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
A型肝炎	1件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1件
つつが虫病	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
レジオネラ症	8件	梅毒	39件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件	百日咳	11件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件		

1. **細菌性赤痢**:50歳代で、Sonnei(D群)です。国外での経口感染と推定されています。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～70歳代で、O血清群はO157が9件、O103が2件、O165が1件、O血清不明が4件です。経口感染と推定される報告が5件、経口感染または接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が10件です。
3. **E型肝炎**:40歳代及び50歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
4. **A型肝炎**:30歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
5. **つつが虫病**:30歳代及び60歳代で、動物・蚊・昆虫等からの感染と推定される報告が1件、昆虫等からの感染と推定される報告が1件です。
6. **レジオネラ症**:50歳代～90歳代で、患者(確定例)が7件(いずれも肺炎型)、無症状病原体保有者が1件です。水系感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が4件です。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:10歳代～80歳代で、以前からの保菌と推定される報告が2件、医療器具関連感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
8. **クロイツフェルト・ヤコブ病**:60歳代で、古典的CJDです。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:10歳未満～60歳代で、血清型はA群が1件、B群が3件です。創傷感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定されている報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
10. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～70歳代で、感染経路は性的接触と推定される報告が5件(同性間3件、異性間1件、詳細不明1件)、感染経路等不明の報告が1件です。
11. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満及び90歳代(ワクチン接種歴3回1件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
12. **侵襲性髄膜炎菌感染症**:30歳代(ワクチン接種歴1回)で、感染経路等不明です。
13. **侵襲性肺炎球菌感染症**:40歳代～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明6件)で、飛沫感染と推定される報告が1件、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件です。
14. **梅毒**:10歳代～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期16件、早期顕症梅毒Ⅱ期12件、無症状病原体保有者11件です。性的接触による感染と推定される報告が33件(異性間23件、同性間4件、詳細不明6件)、感染経路等不明が6件です。
15. **百日咳**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴4回3件、1回2件、不明6件)で、家族内感染と推定される報告が2件、周囲の流行と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が8件です。

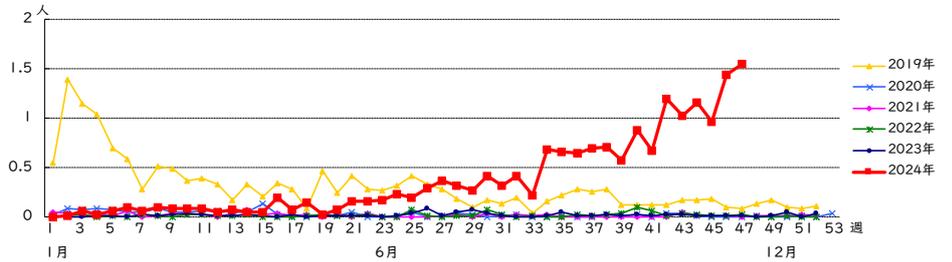
この報告とデータの詳細については、横浜市衛生研究所ウェブページに掲載されています。
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryō-fukushi/kenko-iryō/eiken/>

報告週対応表	
2024年第43週	10月21日～10月27日
第44週	10月28日～11月3日
第45週	11月4日～11月10日
第46週	11月11日～11月17日
第47週	11月18日～11月24日

◇ 定点把握の対象

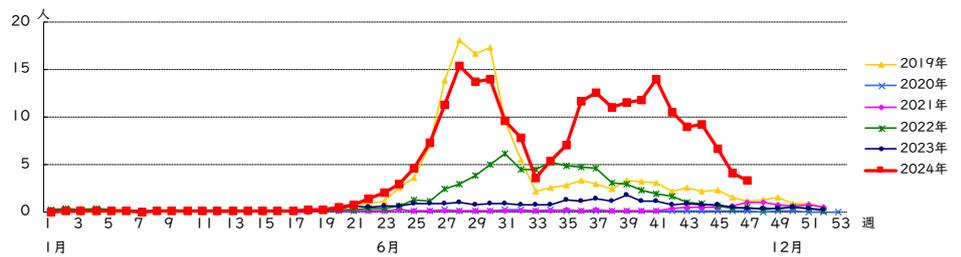
1 伝染性紅斑

2024年第20週以降増加傾向となり、特に第34週以降は例年よりもかなり高い値で推移しています。第47週は1.55です。



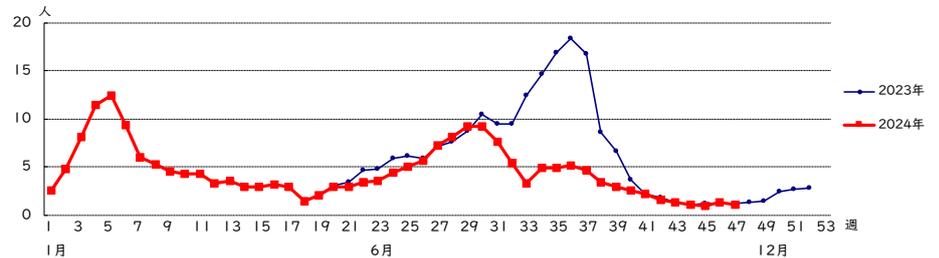
2 手足口病

2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第28週に15.27で1度目のピークを、第41週に13.85で2度目のピークを迎え、以降は減少傾向が続いています。第47週は3.25です。



3 新型コロナウイルス感染症

2024年第19週以降増加傾向が続いていましたが、第29週の9.15をピークに減少傾向が続いています。第47週は1.04です。



4 性感染症(2024年10月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:26件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:9件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:20件	女性:3件	淋菌感染症	男性:9件	女性:3件

5 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.75	2.75	5.00	2.50	2.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

令和6年12月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- インフルエンザは流行警報が発令されました。重症例の報告も増加しています。咳エチケットや手洗い、換気、適切な湿度を保つように心がけましょう。
- 新型コロナウイルス感染症が増加傾向です。感染・発症予防、重症化予防のために、予防接種も有効です。
- 百日咳の報告が増加しています。マイコプラズマ肺炎、伝染性紅斑の報告も続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 感染性胃腸炎の報告も増加傾向です。トイレ後、食事の前の手洗いは入念に行いましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心とした幅広い年齢層で患者が多く発生しており、より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年11月23日～12月22日に報告された全数把握疾患>

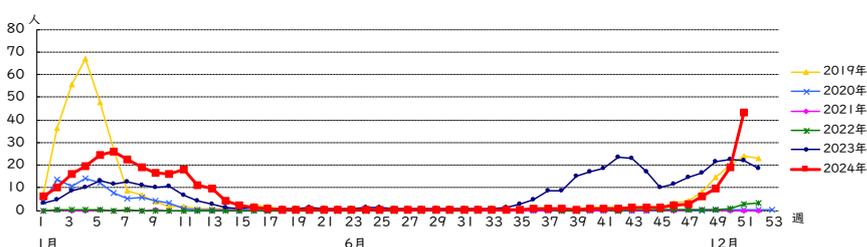
腸管出血性大腸菌感染症	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
レジオネラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	12件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	30件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2件	百日咳	24件

1. **腸管出血性大腸菌感染症**: 10歳代～30歳代で、O血清群はO157が2件、不明が2件です。いずれも感染経路等は不明です。
2. **A型肝炎**: 30歳代(ワクチン接種歴無)で、海外での経口感染と推定されています。
3. **レジオネラ症**: 肺炎型で、60歳代、感染経路は水系感染と推定されています。
4. **アメーバ赤痢**: 60歳代で、感染経路は性的接触(同性間)と推定されています。
5. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**: 80歳代及び90歳代で、以前からの保菌と推定される報告が1件、医療器具関連感染と推定される報告が1件です。
6. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 30歳代及び60歳代で、感染経路はいずれも性的接触(同性間1件、異性間1件)と推定されています。
7. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 60歳代及び80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
8. **侵襲性肺炎球菌感染症**: 10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴4回2件、無4件、不明6件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が5件、飛沫・飛沫核感染または接触感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が5件です。
9. **梅毒**: 10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期13件、早期顕症梅毒Ⅱ期10件、無症状病原体保有者7件です。性的接触による感染と推定される報告が27件(異性間22件、同性間3件、詳細不明2件)、感染経路等不明が3件です。
10. **百日咳**: 10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回6件、3回1件、無2件、不明15件)で、家族内感染と推定される報告が3件、周囲の流行と推定される報告が5件、感染経路等不明の報告が16件です。

◇ 定点把握の対象

1 インフルエンザ

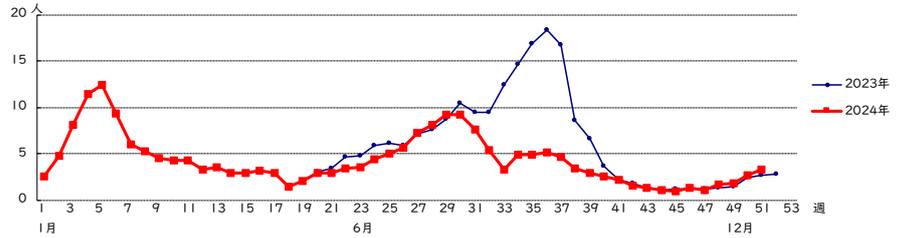
2024年10月下旬(第43週)に流行期に入りました。12月中旬(第50週)には流行注意報の発令基準(10.00)を上回り、第51週には43.15と、流行警報の発令基準(30.00)を上回りました。詳しくは横浜市インフルエンザ流行情報9号をご覧ください。



報告週対応表	
2024年第48週	11月25日～12月1日
第49週	12月2日～12月8日
第50週	12月9日～12月15日
第51週	12月16日～12月22日

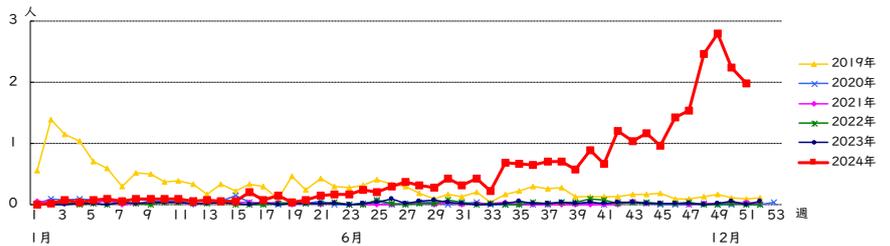
2 新型コロナウイルス感染症

2024年1月下旬(第5週)に1回目(12.45)、7月中旬(第29週)に2回目(9.15)のピークを迎え、減少後は横ばいの状態が続いていましたが、11月下旬(第48週)以降増加に転じています。第51週は3.33です



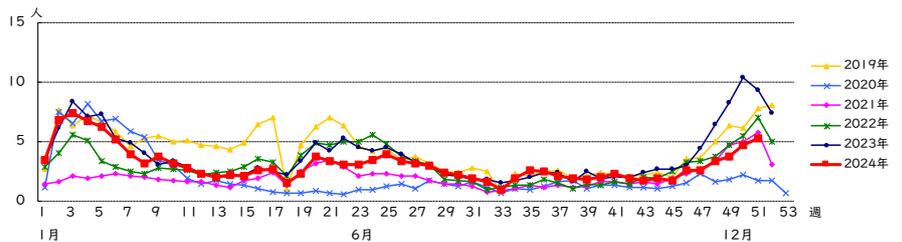
3 伝染性紅斑

2024年5月中旬(第20週)以降増加傾向となり、例年よりも多い状態で推移しました。11月下旬(第48週)に流行警報発令基準値(2.00)を上回りました。12月上旬にピークを迎え、以降減少傾向です。第51週は1.98です。



4 感染性胃腸炎

2024年11月中旬(第46週)以降増加傾向に転じています。第51週は5.21です。



5 性感染症(2024年11月)

性器クラミジア感染症	男性:34件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:8件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:16件	女性:0件	淋菌感染症	男性:9件	女性:2件

6 基幹定点週報

	第48週	第49週	第50週	第51週
細菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	4.25	3.00	2.50	1.75
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

7 基幹定点月報(2024年11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	18件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。

横浜市衛生研究所ウェブページ

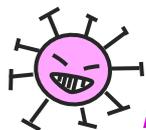
URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/>

感染症に気をつけよう!!

2024年1月号

横浜市衛生研究所

感染症情報センター 12月27日発行



横浜市内の感染症流行状況

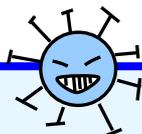


感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
感染性胃腸炎**	発生	増加	11月下旬以降、増加傾向が目立っています。集団感染の報告も増えています。【ちらし】
咽頭結膜熱*	警報	横ばい	例年夏にピークがありますが、7月下旬からの増加傾向の後、まだ警報レベルです。【ちらし】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎*	発生	横ばい	10月下旬以降、増加し、過去5年間の同じ時期に比べて多くなっています。【'18.4号】
インフルエンザ**	注意報	増加	例年の同時期より多く、第50週(12/11~17)では10歳未満が約4割です。【臨時情報】

* 国立感染症研究所

** 厚生労働省

今、復習しておきたい

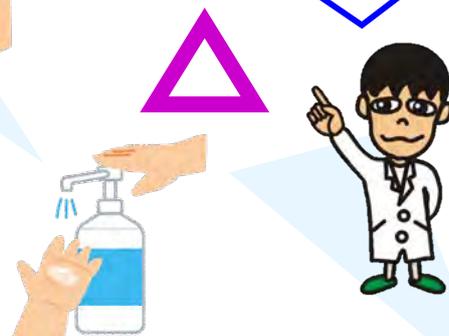


手指のウイルス対策



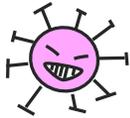
アルコール消毒が効きにくいウイルスもあるよ。アルコールはウイルスの「膜」を壊すことで無毒化する。だから、この「膜」がないウイルス※には、アルコール消毒は効きにくいんだ。

手や指などのウイルス対策**では、洗い流すことが最も大事でしょ。付着しているウイルスの数は、流水による15秒の手洗いで1/100に減るよ！石けんやハンドソープで10秒もみ洗った後に流水で15秒すすぐと1/10,000にまで減らせる！



※ 感染性胃腸炎を起こすノロウイルス
咽頭結膜熱を起こすアデノウイルスなど

感染症に気をつけよう!!



横浜市内 感染症 流行状況

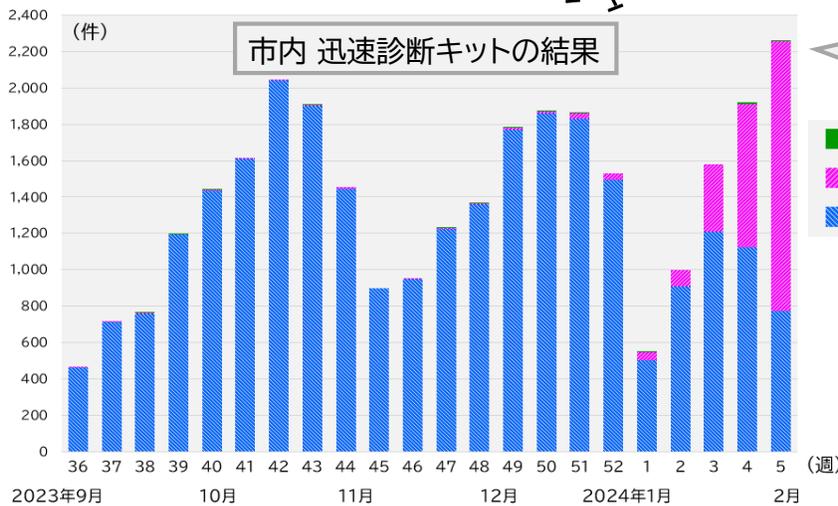
2024年2月号
横浜市衛生研究所



感染症	流行状況		説明 【関連リンク】
インフルエンザ	注意報	増加	報告が増えて、警報レベルに近づく B型の割合が増加 【市内流行情報】
新型コロナウイルス 感染症	流行	増加	1月上旬以降、報告増加が継続中 (昨年5月8日から定点報告に変更)
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	発生	増加	昨年9月下旬以降に増加が目立った 年末年始で減少、今年に入り増加傾向
感染性胃腸炎	発生	横ばい	昨年末は急増、今年は昨年と同レベル 集団感染の報告増加 【ちらし】
梅毒	(全数報告)	横ばい	20歳代~50歳代を中心に多く発生 【政府広報 動画】 【無料・匿名検査】

<参考HP> [国立感染症研究所](#) [厚生労働省](#)

今、復習しておきたい インフルエンザ A型とB型



- A型とB型共に陽性
- B型陽性
- A型陽性

- 季節性に流行を起こすインフルエンザウイルスは、構造の違いで大きくA型とB型に分けられる。
- A型はウイルスの表面にある突起の違いで、さらに亜型(H1N1・H3N2など)に分類される。
- A型ウイルスの同じ亜型内でも、遺伝子が繰り返し突然変異を起こすため、毎年のように流行する。

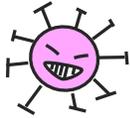
- 例年、B型はA型より遅い時期に流行することが多い。
- 同時期に両方が流行した際は、同じ人が両方同時にかかることがある。
- A型にかかった後に、B型にかかることもある。
- 同じシーズンに、A型の別の亜型にかかることもある。

- A型でもB型でも、治療法は変わらない。
- 感染経路も同じなので、予防には両方とも、正しい手洗いや咳エチケットが大事。

<HPはこちら>

横浜市感染症情報センター 2月9日発行

感染症に気をつけよう!!



横浜市内 感染症 流行状況

2024年3月号
横浜市衛生研究所



感染症	流行状況		説明 【関連リンク】
インフルエンザ	注意報	横ばい	冬休み明けから注意報レベルで推移 90%以上がB型 【市内流行情報】
新型コロナウイルス 感染症	流行	減少	1月末～2月初旬をピークに報告数減少 (昨年5月8日から定点報告に変更)
梅毒	(全数報告)	横ばい	20歳代～50歳代を中心に多く発生 【政府広報 動画】 【無料・匿名検査】

今、気をつけたい 麻しん (はしか)

<参考HP>
厚生労働省
国立感染症研究所

- 麻しんの感染事例が報告されています! [【啓発リーフレット】](#)
- 麻しんは世界で流行しています! [【出国前と帰国後の注意事項】](#)

今、復習しておきたい 不織布(ふしょくふ)マスク



■ マスクの種類はいろいろあるけど、おすすめは【不織布】マスク!
■ 【不織布】とは「織らない布」のこと。その性能と注意点は?



● 【不織布】マスクの静電気は、長い時間使っているうちに失われ、フィルター能力が落ちてしまう!

■ 繊維が3次元構造に重なり、からみ合っている。
■ 繊維のすき間で物理的に飛沫(ひまつ)をとらえる。

■ 物理的なフィルター能力に加えて、静電気[※]で飛沫を吸着することで、高いフィルター能力を発揮する。

■ 気づかぬうちに、フィルター能力が大きく低下したマスクを着けているかもしれない。
■ 使い捨て(1日1枚程度)を原則にしよう!

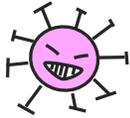


<参照HP>



東京大学 生産技術研究所

感染症に気をつけよう!!



横浜市内 感染症 流行状況

2024年4月号
横浜市衛生研究所



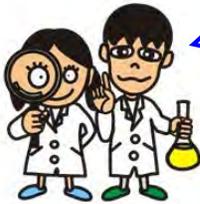
感染症	流行状況		説明 【関連リンク】
インフルエンザ	流行	減少	3月末に流行注意報は解除されたものの報告数は例年より多め 【市内流行情報】
新型コロナウイルス感染症	流行	横ばい	減少していたが3月中は下げ止まり傾向（昨年5月8日から定点報告に変更）
梅毒	(全数報告)	横ばい	20歳代を中心に幅広い年代で発生 【政府広報 動画】 【無料・匿名検査】

今、気をつけたい 麻しん (はしか)

<参考HP>
厚生労働省
国立感染症研究所

- 麻しんの感染事例が報告されています! [【啓発リーフレット】](#)
- 麻しんは世界で流行しています! [【出国前と帰国後の注意事項】](#)

気をつけよう! 海外での感染症



- 今年の大型連休に、海外旅行を計画している人はいるかな?
- せっかくの旅行を台無しにしないためにも、感染症には気をつけて!



- 海外では「日本では珍しい感染症」が流行していることもあるよ。旅行の前に調べておこう!
[厚生労働省検疫所「FORTH」](#)
[首相官邸「海外での感染症対策」](#)

- **食べ物**や**水**、**氷**に注意!
- 生水やカットフルーツは避けて、**加熱されたもの**を選ぼう。

- 生き物にも注意!
- 特に**蚊**は、デング熱・マラリア・ジカ熱など、いろいろな感染症の原因になる。
- 犬だけでなく猫やコウモリなども、**狂犬病ウイルス**に感染している可能性あり。

- 旅行前の**予防接種**も考えて!
- 予防接種によっては、数か月のスケジュールを要する。もし夏休みの旅行を考えているなら、**今から** [トラベルクリニック](#)に相談してみてもいいかも。

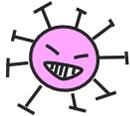


蚊の対策には長袖・長ズボンが理想! 虫よけも忘れずに!



入国の目的によっては「ワクチン接種済みが条件」という国もある。

感染症に気をつけよう!!



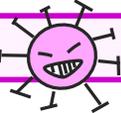
横浜市内 感染症 流行状況

2024年5月号
横浜市衛生研究所



感染症	流行状況		説明 【関連リンク】
RSウイルス 感染症	流行	増加	例年の同時期に比べて患者数は多め (本来は秋～冬の感染症)
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	流行	横ばい	昨年8月頃より患者数増加し12月にピーク、以後減少なく推移
梅毒	(全数報告)	横ばい	20～50歳代中心、先天梅毒も報告あり 【政府広報 動画】 【無料・匿名検査】

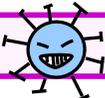
まだ気をつけたい インフル・コロナ



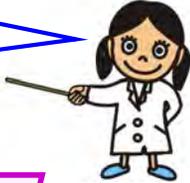
<参考HP>
厚生労働省
国立感染症研究所

- インフルエンザの注意報は解除されましたが、4月にも学級閉鎖が発生しました!
- 新型コロナウイルス感染症も、3月以降の患者数は横ばいのままです!

気をつけよう! 海外での感染症~帰ってきたら



■ 海外旅行から帰ってきたら、何だか具合が悪い……
■ もしも気になることがあったら、必ず医療機関に行って!



医療機関にかかるときのポイント



■ 医師にとっては、「海外に行った」というのはものすごく重要な情報。
■ 他にも、次のことをまとめてもらえると、とても助かるんだ。

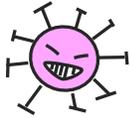
- いつ、どの国に行った?
- 何を食べた?
- 何をした?

渡航時期と国が分かれば、潜伏期間(症状がなかった時期)と合わせて、ある程度の病気が予測できることがある。
食べた物と潜伏期間(症状がなかった時期)と合わせても、病気の見当がついたりすることがある。
「山に行った」「水辺に行った」だけでなく、「虫に刺された」「動物と触れ合った」なども大切な情報のひとつ。



● このサイトも参考にしね。
厚生労働省検疫所「FORTH」 首相官邸「海外での感染症対策」

感染症に気をつけよう!!



横浜市内 感染症 流行状況

2024年6月号
横浜市衛生研究所



感染症	流行状況		説明 【関連リンク】
新型コロナウイルス感染症	流行	横ばい	ピークは過ぎたが終息とはいえない状態 今後も注意が必要
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	流行	横ばい	昨年の12月にピークに達し、以後減少なく推移
RSウイルス感染症	流行	横ばい	例年の同時期に比べて患者数は多め (本来は秋～冬の感染症)
梅毒	(全数報告)	増加	5月中旬以降増加、20～50歳代が中心 【政府広報 動画】 【無料・匿名検査】
侵襲性肺炎球菌感染症	(全数報告)	増加	4月下旬～5月中旬にかけて患者数が増加傾向 【小児の感染症】 【大人の感染症】

<参考HP>

厚生労働省 国立感染症研究所

今、気をつけたい感染症 RSウイルス感染症

- RSウイルス感染症は、本来なら秋から冬にかけての感染症。
- それがここ数年、流行の時期が早まっている傾向にあるんだ。



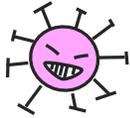
- ほとんどの子が、2歳までに一度はかかるといわれている感染症。
- 多くは軽症で済むけれど、乳幼児や高齢者などはまれに重症化することがあります。

- 予防にはまず手洗い。アルコール速乾性手指消毒薬も有効。マスク着用もおすすめ。
- まずは「周りの大人が広げない」ことから始めましょう！



横浜市感染症情報センター 6月6日発行

感染症に気をつけよう!!



横浜市内 感染症 流行状況

2024年7月号
横浜市衛生研究所



感染症	流行状況		説明 【関連リンク】
新型コロナウイルス感染症	流行	増加	5月以降増加傾向、流行の程度は前年とほぼ同様
手足口病	流行	増加	例年より早い時期から報告数増加、7月初めに流行警報域に到達 【臨時情報】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	流行	横ばい	年始からほぼ一定の水準で推移、コロナ前の流行パターンに近づきつつある
梅毒	(全数報告)	増加	20~50歳代が中心だがあらゆる年代で報告あり 【政府広報 動画】 【無料・匿名検査】

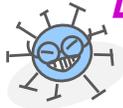


この他にも……

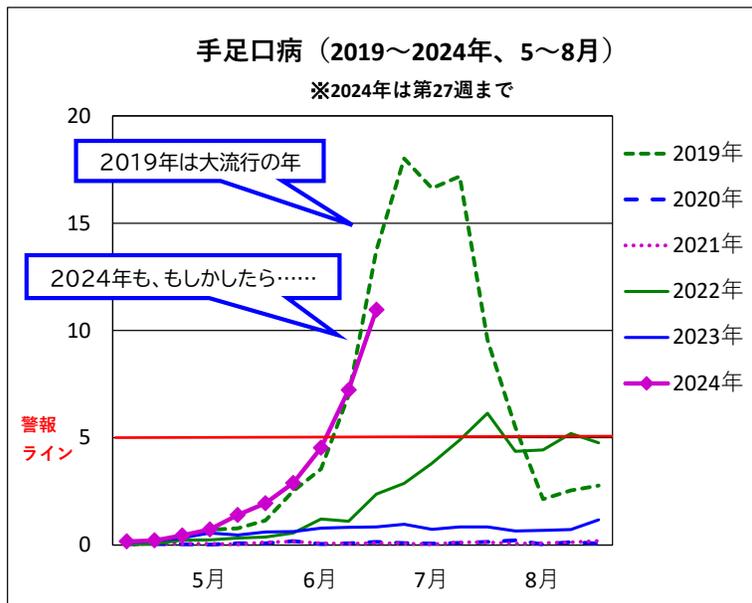
伝染性紅斑(リンゴ病)やヘルパンギーナなどが増えてきています。

<参考HP> [厚生労働省](#) [国立感染症研究所](#)

今、気をつけたい感染症 手足口病



● 今年は手足口病が全国的に流行。
横浜市も7月に警報発令!



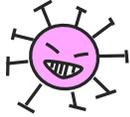
口の中や手足に水疱性の発疹(ブツブツ)が出る感染症。あまり高熱にはならないけれど、まれに重症化することがあるので注意が必要。

流行の中心は乳幼児、特に多いのは1歳前後。手足口病のウイルスは、症状が落ち着いてもしばらくは便と一緒に排泄されるので、おむつ交換の後の手洗いは特にていねいに!

「学校において予防すべき感染症の解説」では、登校・登園は「本人の全身状態が安定していれば可」となっています。心配な場合は、かかりつけ医に相談してみてください。



感染症に気をつけよう!!

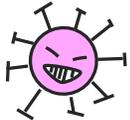


横浜市内 感染症 流行状況

2024年8月号
横浜市衛生研究所



感染症	流行状況		説明 【関連リンク】
手足口病	流行	減少	7月初めに流行警報域に到達したが8月に入り患者数は減少傾向 【臨時情報】
新型コロナウイルス感染症	流行	横ばい	5月以降増加傾向、流行の程度は前年とほぼ同様
腸管出血性大腸菌感染症	(全数報告)	増加	7月に入ってから患者数が増加、幅広い年代で報告あり
梅毒	(全数報告)	増加	20～50歳代が中心だがあらゆる年代で報告あり 【政府広報 動画】



なかなか減らない梅毒……

令和に入ってから性感染症は増加傾向。その中でも特に梅毒は全国的に増える一方。気になる人はぜひ検査を！

[【無料・匿名検査】](#)

<参考HP>

厚生労働省

国立感染症研究所

今、気をつけたい 腸管出血性大腸菌感染症



- 夏といえばバーベキュー！でも肉は生だと危険がいっぱい！
- 「O157(オーイチゴナ)」って、聞いたことあるかな？詳しくは[ここ*](#)を見て！

*厚生労働省「腸管出血性大腸菌Q&A」

主な感染経路は？

菌で汚染された食べ物や飲み物を摂取してしまったり、菌を持っている生き物と触れ合ったりして感染することが考えられます。ヒトからヒトへも感染します。



予防法は？

他の食中毒菌と同じように、**加熱**や**消毒薬**で死滅します。もちろん、**普段からきちんと手を洗う**ことも大切。



この「食品の加熱」は、ただ温めればいいということではなく、「**中心部の温度を75℃以上にして1分以上**」というのがポイント。*

**内閣府 食品安全委員会

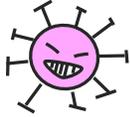
「肉を低温で安全においしく調理するコツをお教えします！」



「腸管出血性大腸菌感染症」と診断されると、保健所の聞き取り調査があります。感染症を広げないための調査なので、ご協力をお願いします。

横浜市感染症情報センター 8月14日発行

感染症に気をつけよう!!



横浜市内 感染症 流行状況

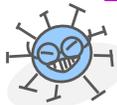
2024年9月号
横浜市衛生研究所



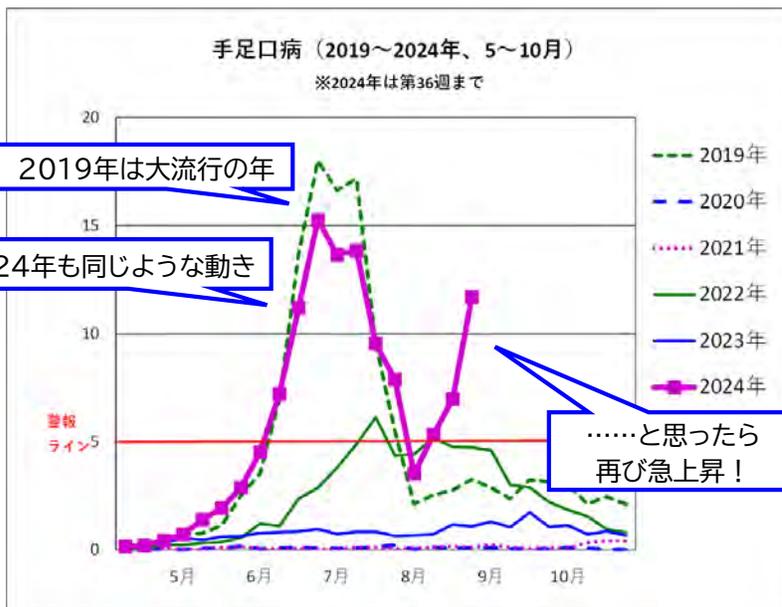
感染症	流行状況		説明 【関連リンク】
百日咳	(全数報告)	増加	7月上旬から散発、8月以降患者数が増加しつつある
マイコプラズマ肺炎	流行	増加	5月下旬～6月までは散発だったが7月以降は毎週報告あり
手足口病	流行	増加	8月に入り患者数は減少していたが9月以降再度増加 【臨時情報】
新型コロナウイルス感染症	流行	横ばい	7年半ばをピークに患者数は減少、現在は下げ止まりの状況
梅毒	(全数報告)	横ばい	20～50歳代が中心だがあらゆる年代で報告あり 【政府広報 動画】 【無料・匿名検査】

<参考HP> [厚生労働省](#) [国立感染症研究所](#)

今、気をつけたい 手足口病



● いったん流行が落ち着いたように見えていた手足口病が、また増えてきた！



※参考
横浜市感染症情報センター
[臨時情報 \(手足口病\)](#)

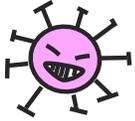
7月のピーク時は、流行の中心は1歳前後の乳幼児だったけど、9月に入ってから未就学児(1～6歳)が多くなっている。

石けんと流水で手を洗うのが、一番の予防法！



横浜市感染症情報センター 9月18日発行

感染症に気をつけよう!!



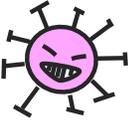
横浜市内 感染症 流行状況

2024年10月号
横浜市衛生研究所



感染症	流行状況		説明 <small>【関連リンク】</small>
百日咳	(全数報告)	増加	7月上旬から散発、8月以降患者数が増加しつつある
伝染性紅斑	やや流行	増加	5月以降増加傾向、例年の同時期に比べて患者数は多い
マイコプラズマ肺炎	流行	増加	5月下旬～6月までは散発だったが7月以降は毎週報告あり
腸管出血性大腸菌感染症	(全数報告)	横ばい	7月に入ってから患者数が増加、幅広い年代で報告あり
手足口病	流行	横ばい	7月に大流行、8月以降落ち着くかに見えたが9月以降再び大流行 <small>【臨時情報】</small>
新型コロナウイルス感染症	流行	減少	7年半ばにピークを迎えて以降、患者数は徐々に減少
梅毒	(全数報告)	横ばい	20～50歳代が中心だがあらゆる年代で報告あり、10歳代や妊婦の事例も <small>【政府広報 動画】【無料・匿名検査】</small>

<参考HP> 厚生労働省 国立感染症研究所



感染症を広げないために……



咳などが出るときは
マスクをする



タオルの共用は
避ける



具合が悪いときは
無理をせず休む

横浜市感染症情報センター 10月15日発行

2024年
11月号
横浜市
衛生研究所

感染症に 気をつけよう

今月の感染症流行状況



疾患名	流行状況	説明
マイコプラズマ肺炎	流行中	7月以降毎週報告あり 現在増加傾向
手足口病	流行中	7月と9月に大きなピークがあったが 10月以降は患者数減少
伝染性紅斑	注意	例年の同時期より患者数が多い 今後流行の兆し
梅毒	注意	20～50歳代が中心 あらゆる年代で報告あり

今月のトピック

インフルエンザ流行期入り！

01 横浜市内の流行状況

9月上旬から学級閉鎖の報告あり
10月下旬に流行期入り

今後さらに流行の可能性



インフルエンザ臨時情報
(横浜市感染症センター)

02 予防のためには

＼流水と石けんで／



こまめな手洗い

＼ときどき窓を開けて／



部屋の換気

＼予防接種はお早めに／

高齢者等は助成制度あり



インフルエンザワクチン接種

予防のためには、日頃の対策が重要！



横浜市感染症
情報センター

横浜市感染症情報センター 11月21日発行

2024年
12月号
横浜市
衛生研究所

感染症に 気をつけよう

今月の感染症流行状況



疾患名	流行状況	説明
マイコプラズマ肺炎	流行中	7月以降報告数が増加 減少の兆しは見られない
インフルエンザ	流行中	10月末に流行期入り 市内でも学級閉鎖の報告が増加
伝染性紅斑	大流行	6月以降患者数が増加 12月上旬に流行警報発令
梅毒	流行長期化	20～50歳代が中心だが 10歳代の報告もあり

今月のトピック

冬に流行する感染症「感染性胃腸炎」

01 主な症状・特徴

吐き気、おう吐、下痢、腹痛



ノロウイルスが原因であることが多く
特に冬季に流行します。

ノロウイルスは感染力がとても強く
少ないウイルス量でも感染します。
予防策を徹底しましょう。

＼ここからダウンロード／



感染性胃腸炎リーフレット
(横浜市感染症情報センター)

02 予防策



食事の前
トイレの後など
必ず手洗い！

流水と石けんで手洗い



便や吐物には
大量のウイルスが
含まれます。
適切に消毒！

次亜塩素酸ナトリウムで消毒



症状がある方は
食品を直接
取り扱う作業を
しない！

食品を扱う方は注意

具合が悪いときは、無理せず休むのも重要！

横浜市感染症情報センター 12月13日発行



横浜市感染症
情報センター

横浜市感染症発生動向調査事業概要
2024年(令和6年)

横浜市医療局 衛生研究所 感染症・疫学情報課
2026年2月発行

〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二丁目7番1号
Tel 045(370)9237
Fax 045(370)8462